



国立大学法人 弘前大学医学部附属病院

診療のご案内

2024

Hirosaki University Hospital



CONTENTS

■ ことあいさつ	1
■ 総合患者支援センターのご案内	2
■ 紹介患者さんの初診予約受付について	3
■ FAX診療申込書	4
■ 外来診療受付曜日(新患・再来・専門外来)	6
■ 地域がん診療連携拠点病院として	7
■ 悪性腫瘍(がん)におけるセカンドオピニオン外来のご案内	8
■ 受付から帰宅までの手順	10
■ 診療科のご紹介	13
消化器内科/血液内科/免疫内科	14
循環器内科/腎臓内科	15
呼吸器内科/感染症科	16
内分泌内科/糖尿病代謝内科	17
脳神経内科	18
腫瘍内科	19
神経科精神科	20
小児科	21
呼吸器外科/心臓血管外科	22
消化器外科/乳腺外科/甲状腺外科	23
整形外科	24
リハビリテーション科	25
皮膚科	26
泌尿器科	27
眼科	28
耳鼻咽喉科頭頸部外科	29
産科婦人科	30
放射線治療科	31
放射線診断科	32
麻酔科/集中治療科	34
脳神経外科	35
形成外科	36
小児外科	37
歯科口腔外科	38
病理診断科	39
救急科	40
■ 中央診療施設等のご紹介	41
高度救命救急センター	42
薬剤部・看護部	43
手術部・検査部	44
放射線部・材料部	45
輸血部・集中治療部	46
周産母子センター・病理部	47
光学医療診療部・リハビリテーション部	48
総合診療部・血液浄化療法部	49
高圧酸素治療室・強力化学療法室・臨床工学部	50
臨床試験管理センター・栄養管理部	51
肝疾患相談センター・脳卒中・心臓病等総合支援センター	52
医療安全推進室・感染制御センター	53
医療技術部	54
■ 診療実績	55
■ 指定・承認を受けている公費・施設基準	57
■ 院内のご案内	58
■ 受付窓口のご案内	60
■ 当院へのアクセス	61

■ごあいさつ



弘前大学医学部附属病院長

はかまだ けんいち
袴田 健一



弘前大学医学部附属病院は、昭和20年青森医学専門学校附属病院として設立されましたが、間もなく戦災のため弘前市に移転。以来、75年余にわたり、高度医療の提供と医療人材の育成を通じて地域社会に貢献してまいりました。現在、本院には35の診療科と26の中央診療施設が整備され、新生児から高齢者まで、全身の多様な疾患に対応できる体制を整えています。

本院の使命は、安全かつ質の高い医療を提供すること、地域社会と連携して医療課題に積極的に取り組むこと、優れた医療人材を育成すること、医療・医学の発展のための研究を推進することです。とりわけ地域医療の最後の砦である特定機能病院として、高度で先進的な医療を地域社会に提供することは重要な使命と考えています。多診療科連携による高難度手術、ハイブリッド手術室を活用した心血管・脳血管治療、小児血液腫瘍治療、ロボット手術、臓器移植、スポーツ医学などは我が国の先進的施設の一つです。さらに、高度救命救急センターは北東北の救急医療の最後の砦としてのみならず、東北・北海道における被ばく医療拠点としての機能も有しています。

本院は、今後とも安全で質の高い高度医療を提供し続けるとともに、先進的な医療技術の開発を進めてまいります。また、常に患者様に寄り添い、質の高い医療を実践できる医療人を育成してまいります。

弘前大学医学部附属病院は、受診された全ての患者さんに「弘大病院で診療を受けてよかった」と感じていただけるよう、職員挙げて努力してまいります。ご意見やご感想がございましたら遠慮なくお寄せいただければ幸いです。

国立大学法人弘前大学医学部附属病院の使命

生命倫理に基づいた最先端の医療、医学教育及び研究を実践し、患者の心身に健康と希望をもたらすことにより、地域社会に貢献することです。

附属病院の目標

1. 安全かつ質の高い医療を提供するとともに、地域医療機関及び地方公共団体等と連携し、地域の医療課題に積極的に取り組む。
2. 医学部及び関係機関と連携し、医師をはじめとする医療人の卒前・卒後を含めた一体的な教育体制を充実させる。また、医療人の専門性・国際性を向上させるための教育・研修体制を充実させる。
3. 特定機能病院として医療分野を先導するため、特定臨床研究等を推進する。
4. 超高齢社会を踏まえた医療環境の変化に対応し得る施設整備を推進する。

当院では **ISO9001** を2005年4月8日に取得しております。

2018年3月20日には、ISO9001:2015の認証を取得しております。
また、2024年2月16日に更新審査を終え、認証登録が承認されました。

■ 総合患者支援センターのご案内



総合患者支援センター長

田坂 定智



本院は、県内唯一の特定機能病院であり、地域医療の最後の砦として高度急性期医療を担当しております。本院の機能を発揮するため、患者さんの入退院支援や在宅支援を行うことを目的に2006年に地域連携室を設置し、2015年4月に「総合患者支援センター」となりました。

総合患者支援センターは、従来の外来予約支援部門、総合医療相談部門、入退院支援部門、肝疾患診療相談支援部門、遺伝カウンセリング部門に加え、2023年8月から脳卒中・心臓病等総合支援部門が新設されました。この部門は、患者さんまたは家族からの相談を受け、急性期・回復期・維持期など症状に応じてシームレスな医療を提供できるように県内の病院診療所と連携を担う機能を持っています。総合患者支援センターは、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、薬剤師等様々な職種の構成員が支援業務に携わっており、患者さんとその家族が最高の医療ケアとサポートを受けられるように専門的なサービスを提供しています。私たちの目標は、患者さんの心身の健康と幸福を促進し、病気や医療に関する課題に対して包括的かつ継続的なサポートを提供することです。

患者サービスのさらなる向上と効率の良い地域連携を目指しておりますので、皆様のご理解とご支援を賜りたくお願い申し上げます。

業務内容のご紹介

総合患者支援センターは外来診療棟1階正面入口より左手にあります。
主な業務は下記のことを行っております。

外来予約支援部門

TEL:0172-39-5464

- 初診予約
- 初診紹介患者のFAX受付
- 初診紹介患者のFAX返書
- 診療案内・外来担当医表の作成

総合医療相談部門

TEL:0172-39-5337

- 転院調整
- 在宅療養支援
- 患者・家族からの退院後の生活に関する相談・調整

入退院支援部門

TEL:0172-39-5337

- 入院及び退院に係る患者・家族への説明
- 入院患者の基本情報収集

肝疾患診療相談支援部門

TEL:0172-33-5111
(内線4020)

- 肝疾患に係る相談
- 肝炎治療に係る医療費助成の説明

遺伝カウンセリング部門

TEL:0172-39-5551

- 遺伝性疾患等に係る相談・カウンセリング

脳卒中・心臓病等 総合支援部門

TEL:0172-39-5459

- 脳卒中・心臓病等に係る相談対応
- 脳卒中・心臓病やその予防に関する情報提供



■ 紹介患者さんの初診予約受付について

当院では紹介患者さんの初診予約受付を行っております。(一部診療科を除く)
当院専用のFAX診療申込書を記入の上、総合患者支援センターまでFAXでお申込みください。

お申し込み先

TEL:0172-39-5464
FAX:0172-39-5338

受付時間

TEL:平日8:30~17:00
FAX:24時間自動受付

受診時に
必要なもの

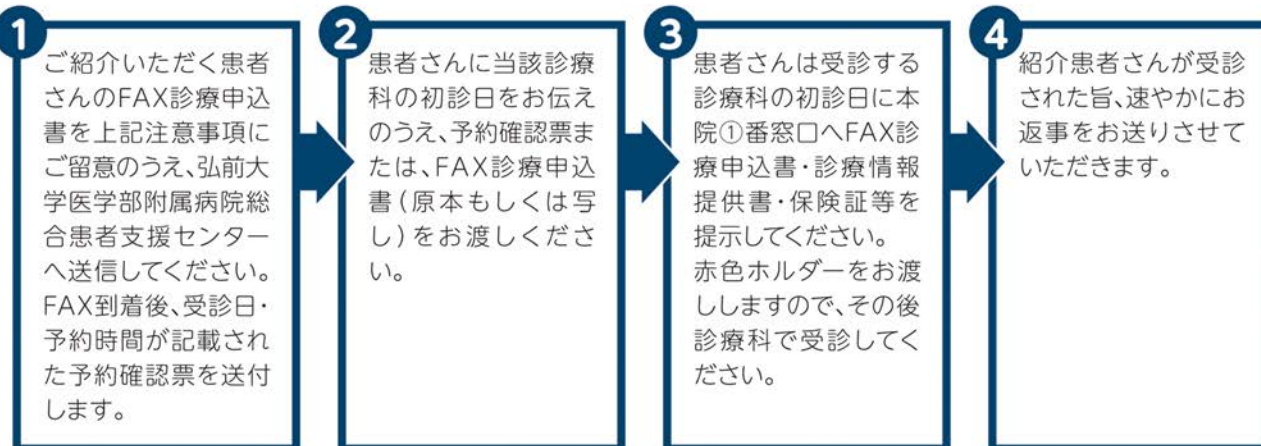
FAX診療申込書・診療情報提供書・健康保険証等

※限度額適用認定証・高齢受給者証・後期高齢者受給者証・その他公費負担等の受給者証をお持ちの方は併せてご持参ください。

注意事項

- お申し込みは必ず医療機関からお願いします。
- FAX受付は患者さんの受診予定診療科が初診の場合に限ります。
- 受診日は原則外来初診診療日になっております。別表の「外来診療受付曜日(新患・再来・専門外来)」をご参照のうえ、お申し込み願います。
(専門外来日へ受診希望される場合は当該診療科に事前に確認のうえ、お申し込みください。)
- ご紹介いただきました患者さんがご来院されましたら、速やかに受診された旨お返事をお送りさせていただきます。
- 高度救命救急センターに関しては基本医師同士の連絡調整となります。

FAX申し込みの手順



弘前大学医学部附属病院 総合患者支援センター 外来予約支援部門 行 〒036-8563 弘前市本町53番地	FAX番号 0172-39-5338 〔連絡先TEL〕0172-39-5464
---	--

FAX受付：24時間自動受付（ただし、17:00以降、土日、祝日にいただいたFAXは、翌平日に確認後、ご連絡いたします。）

弘前大学医学部附属病院 FAX 診療申込書

申込年月日	令和 年 月 日	科		ID								
紹介元	医療機関名	診療科										
		担当医										
		申込担当者										
		TEL										
		FAX										
患者基本情報	現在の状況	☐ 外来通院中 ☐ 入院・入所中		当院受診歴	☐ 無 ☐ 有 ()		科					
	フリガナ			国 籍	(外国籍の方のみ)							
	氏 名	旧姓()		性別			生年月日			歳		
	住 所	〒										
	携帯電話			固定電話								
緊急連絡先	フリガナ 氏名			続柄			電話					
※保険証等の写しを添付していただいた場合は、記載不要です。												
保険情報	主保険	☐ 社保 ☐ 生保 ☐ 労(公)災		保険者番号			記号			番号		
		☐ 国保 ☐ 後期 ☐ 自賠責 ☐ その他		資格取得日			本家区分	☐ 本人 ☐ 家族				
	公費①	保険者番号			記号			番号				
	公費②	保険者番号			記号			番号				
受診予定日 (希望日)	① 月 日 ()	② 月 日 ()		③ 月 日 ()								
医師の指定	☐ 無 ☐ 有 → ()		医師	備考								

FAX申込書の流れ

FAX診療申込書(様式1-1.1-2)と診療情報提供書をFAX送信して下さい。



FAX到着後、15分以内に受診日・予約時間が記載された「予約確認票」を送付しますので、患者さんにお渡し下さい。(確認に時間を要する場合があります。)

患者さんが持参するもの

- ・予約確認票
- ・診療情報提供書(紹介状)の原本
(事前到着をお願いしている診療科があります。詳しくは、様式1-2をご確認ください。)
- ・マイナンバーカード(マイナ保険証の方)
- ・保険証等(限度額適用認定証等の医療費助成に関わるもの)

※当申込書は、2枚1組となっております。様式1-2もご記入の上、必ず送付をお願いいたします。

令和6年6月改定

受診予定科へチェックをお願いいたします。

患者氏名

様

★ は、診療科に確認の上で予約日時が決定になるため、「予約確認票」は翌日以降での返信となります。

太枠の診療科は、診療情報提供書・検査データ(画像を含む)等を 受診予定日の3日前(土・日・祝を除く)までに送付して下さい			
送り先 〒036-8563 弘前市本町53番地 弘前大学医学部附属病院 総合患者支援センター 外来予約支援部門			
受診 予定科	診療科名(新患診療日)		受診 予定科
☐	整 形 外 科	整形外科一般(月・水・金)	☐ 循環器内科(火・金)
☐		スポーツ外来(月PM・木AM,PM)	☐ 腎臓内科 (火・金)
☐		脊椎(火AM・水AM)	☐ 呼吸器内科/感染症科(火・金)
☐		関節(火AM・金AM)	☐ 呼吸器外科(火) ※4
☐		★ 腫瘍(火PM)	☐ 心臓血管外科(火・金)
☐		手・外傷再建(月AM・火PM) ※5	☐ 消化器内科・血液内科・
☐		リウマチ(水AM)	☐ 消化管(月・木)
☐		側弯症(金AM)	☐ ★ 血液疾患全般(月・木)
☐		★ 小児整形外科(第1・3・5金PM)	☐ ★ 悪性リンパ腫(月・木)
☐		PRP(金PM)	☐ 肝胆膵(月・木)
☐	★ がん口コモ(月・火・水・金AM)	☐ 膠原病・炎症性腸疾患(月・木)	
☐	泌尿器科(月～金)	☐ 消化器癌化学療法(月・木)	
☐	消化器外科(月・水)	☐ 心療内科 ※2	

受診 予定科	診療科名(新患診療日)		受診 予定科	診療科名(新患診療日)	
☐	▲ 放射線治療科(月・火・水)	部位	☐	腫瘍内科	▲ がんゲノム(火・水・木)
☐	▲ 放射線診断科 IVR(月～金)	部位	☐		▲ 固形腫瘍(金)
TEL:0172-39-5280(IVRを除く)			TEL:0172-39-5378		
▲ は、診療科へお電話でご予約した上で、FAX送信をお願いします。					
☐	内分泌内科/糖尿病代謝内科(月・水)		☐	リハビリテーション科	リハビリテーション科(月～金)
☐	精 神 科	★ 6歳～15歳(月・金) ※1	☐	女性アスリート(金) ※3	
☐		★ 大人 (月・水・金) ※1	☐	皮膚科(月～金)	
☐		★ 就学前児童 発達外来(木) ※1	☐	遺伝性皮膚疾患(木)	
☐		★ クロザリル外来(月) ※1	☐	レーザー(血管腫)(火)	
☐	小 児 科	神経(月)	☐	一般外来(月・木)	
☐		腎臓、膠原病、アレルギー(火)	☐	産科婦人科	
☐		血液、造血幹細胞移植(水)	☐	不妊(火)	
☐		心臓(木)	☐	産科(月・木・金)	
☐		内分泌代謝(金)	☐	★ がん生殖外来(月・火・木・金)	
☐	★ 長期フォローアップ(金)		☐	NIPT外来(金) ※6	
☐	★ 乳腺外科・甲状腺外科		☐	麻酔科	★ 麻酔科(月・火・木・金)
☐	★ 眼科		☐	漢方外来(水)	
☐	耳鼻咽喉科頭頸部外科(月・水・金)		☐	脳神経外科	脳神経外科(月・金) ※4
☐	小児外科(月・火・水・木)		☐	頭痛外来(月・金)	
☐	脳神経内科(火・木)		☐	形成外科	一般外来(月・水・金)
☐	歯科口腔外科(月～金)		☐		乳房再建外来(金)
			☐	★ 総合診療部(月・火・木・金)	

※1 問診票も合わせてお送りください。

※2 FAX送信の上、火・水の13:00～15:00に診療科へご連絡下さい。 TEL:0172-33-5111(代表)

※3 申込時、受診番号をご案内します。予約日の2日前までに患者様が予診票の入力をお願いします。

※4 受診時、家族の同伴(受診も含む)が必要です。

※5 外傷再建は、診療科に確認の上で予約日時が決定になるため、「予約確認票」は翌日以降での返信となります。

※6 NIPT専用の診療情報提供書に必要事項をご記入の上、申込をお願いします。

令和6年6月改定

■ 外来診療受付曜日(新患・再来・専門外来)

受付時間 【新患】8:30～10:30

【再来】8:00～11:00 (ただし、新患、再来を問わず、予約をされている方は予約時間まで。)

診療時間 8:30～17:00(休診日は土・日曜日、祝日、振替休日、年末年始12月29日～1月3日)

受付曜日 ●:新患(紹介状必須・予約必須)

△:再来 ■:専門外来(詳細は別紙1, 専門外来の新患受付曜日・時間は別紙2)

緊急を要する場合は、各診療科外来にお問い合わせください。

令和6年6月1日改訂版

診療科名	月			火			水			木			金		
	新患	再来	専門	新患	再来	専門	新患	再来	専門	新患	再来	専門	新患	再来	専門
消化器内科・血液内科・免疫内科	●	△	■		△	■		△	■	●	△	■		△	■
循環器内科		△	■	●				△	■			■	●		
腎臓内科				●	△	■			■				●	△	■
呼吸器内科・感染症科		△		●	△			△			△		●	△	
内分泌内科・糖尿病代謝内科	●	△	■		△	■	●	△	■		△	■		△	■
脳神経内科 ※		△	■	●				△		●				△	■
※ 受診にあたってはかかりつけ医からの紹介状が必要です。また、事前の予約が望ましいですが、ない場合でも受付します。															
腫瘍内科		△		●	△	■	●	△	■	●	△	■	●	△	
は各曜日により新患受付が異なります。				がんゲノム			がんゲノム			がんゲノム			固形腫瘍		
神経科精神科	●	△	■		△	■	●	△	■	●	△	■	●	△	■
は各曜日により新患受付が異なります。										就学前児童の発達診断					
小児科	●	△	■	●	△	■	●	△	■	●	△	■	●	△	■
は各曜日により新患受付が異なります。	神経			腎臓・膠原病・アレルギー			血液腫瘍・造血幹細胞移植			心臓			内分泌代謝、長期フォローアップ		
呼吸器外科				●	△	■		△							
心臓血管外科				●						●			●	△	■
消化器外科	●	△	■		△		●	△	■		△	■		△	
乳腺外科・甲状腺外科	●	△	■		△			△	■		△	■		△	
整形外科	●	△	■		△	■	●	△	■			■	●	△	■
リハビリテーション科	●	△		●	△	■	●	△	■	●	△	■	●	△	■
皮膚科	●	△	■	●	△	■	●	△	■	●	△	■	●	△	■
泌尿器科	●	△	■	●	△	■	●	△	■	●	△		●	△	■
眼科			■	●	△	■		△			△		●	△	
耳鼻咽喉科頭頸部外科	●	△	■			■	●	△				■	●	△	■
放射線治療科	●	△	■	●	△		●	△							■
放射線診断科(IVR)	●	△	■	●	△	■	●	△	■	●	△	■	●	△	■
産科婦人科	●	△	■	●	△	■			■	●	△	■	●	△	■
は各曜日により新患受付が異なります。				産科なし									産科のみ		
麻酔科・集中治療科	●	△	■	●	△	■			■	●	△	■	●	△	■
脳神経外科	●		■		△			△			△	■	●		■
形成外科	●	△			△		●	△			△		●	△	■
小児外科	●	△		●	△		●	△		●	△				
病理診断科(院内頼診のみ)							●								
救急科															
総合診療部	●	△		●	△		●	△		●	△		●	△	
歯科口腔外科	●	△	■	●	△	■	●	△		●	△	■	●	△	■

■ 地域がん診療連携拠点病院として

当院は平成19年1月に地域がん診療連携拠点病院としての認定を受けております。

腫瘍センター

平成18年11月より院内の外来化学療法室や緩和ケアチームを中心とした腫瘍センターを設置しました。そして、従来の腫瘍センターの機能を地域がん診療連携拠点病院としての整備を担う目的で、機能と内容を一層充実させるために平成20年12月に改組しました。従来の臓器別がん診療体制を補完する意味から、臓器にとらわれない横断的な診療グループとしての位置づけを明確にしており、診療体制では、外来化学療法室、緩和ケア診療室、がん放射線治療診療室を開設しております。また拠点病院として院内がん登録室も腫瘍センター内に位置づけております。さらに令和元年、「がんゲノム医療拠点病院」の指定を受けたことから、「がんゲノム医療室」が新たに設置され計6部門で構成されることになりました。

がん相談支援センターでは、がんに関する情報収集や悩み・不安を語り合うことのできる場として「がんサロン」を開設しております(平日 8時30分～17時)。メディカルスタッフによるミニ勉強会や、相談会、体験会など様々な取り組みを行っており、患者さん、ご家族、地域の皆様など、どなたにでもお気軽にご利用いただけるよう、一層の患者サービスに寄与してまいります。

外来化学療法室

悪性腫瘍の外来患者に対し、医師、看護師、薬剤師らで構成されるがん専門チームが、安全かつ有効に、抗悪性腫瘍薬等による化学療法を行っております。

緩和ケア診療室

麻酔科医、精神科医、看護師、薬剤師、臨床心理士、管理栄養士等で構成され、一般病棟に入院する悪性腫瘍または後天性免疫不全症候群の患者のうち、疼痛、倦怠感及び呼吸困難等の身体的症状または不安、抑うつ等の精神症状がある患者に対して、チームで緩和ケアを提供しております。

がん放射線治療診療室

専任の医師や放射線技師らをスタッフとし、複数種類の悪性腫瘍に対し放射線療法を行っております。

院内がん登録室

地域・全国レベルでの正確ながん罹患率等を把握するため、院内のがん患者の登録、データ集計・分析を行っております。

がん相談支援センター

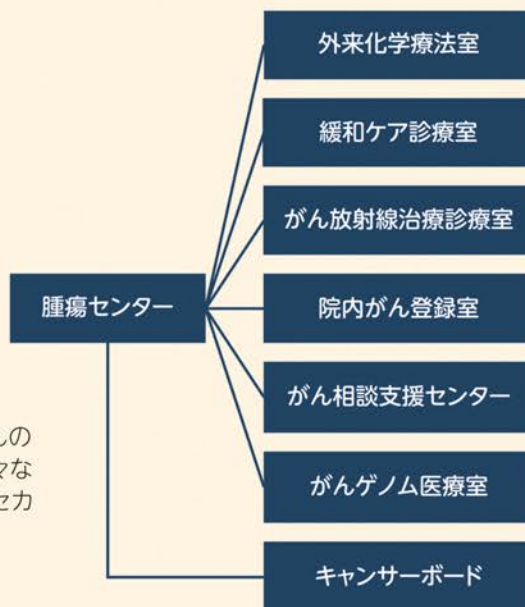
看護師と社会福祉士の資格を持つ2名の相談員が、がんの治療や療養に際して、患者さん・ご家族・地域の方々の様々なご相談に応じています。また、悪性腫瘍(がん)における、セカンドオピニオン外来の窓口にもなっております。

がんゲノム医療室

がんゲノム医療室では自施設でがん遺伝子パネル検査を完結できるシステムが構築されています。検査の詳細につきましては病院ホームページをご覧ください。

がん相談支援センター

手術、放射線科診断、放射線科治療、化学療法、病理診断および緩和ケアに携わる専門的な知識や技能を有する医師やその他の専門医師・医療スタッフ等が参集し、その患者さん個人に対する、最も良い治療方針について検討するためのカンファレンスを週に2回行っております。



■ 悪性腫瘍(がん)におけるセカンドオピニオン外来のご案内

セカンドオピニオン外来の概要

セカンドオピニオンは、病気や治療等の理解を深めるため主治医以外の専門医の意見を聞き納得して最良の治療を選択する際の手段として役立てて頂く「第2の意見」です。担当医を変えたり、新たな検査や治療は行えませんのでご了承ください。

相談内容 悪性腫瘍に関する疾患

対象者 患者さんご本人及びそのご家族

※ご家族のみの場合は、ご本人の同意書が必要になります。

手続き方法

- ①来院または電話にて、相談内容をお伺いし、相談者へ必要書類を送付いたします。
※受付時間:平日8:30~17:00(土日祝日年末年始を除く)
- ②相談者は、申込書(様式1)をFAXまたは郵送にて、がん相談支援センターへ送っていただきます。
- ③相談に対応可能な場合は、後日、がん相談支援センターより日時をご連絡いたします。

ご用意 するもの

- 相談者 ● 予約票(相談日時決定後に、がん相談支援センターから送付される書類です。)
- 相談者のご家族のみの場合は「相談同意書(様式2)」
- 医療機関 ● 診療情報提供書
- (主治医) ● 検査資料(血液検査、超音波検査、レントゲン等の画像データ、病理検査報告書など)

相談時間 1回あたり1時間を見込んでいます。(報告書作成時間(約15分)を含む)

料 金 1回につき 33,000円(税込)の定額料金となっています。

セカンドオピニオン 対象領域及び担当診療科一覧

令和6年4月現在

診 療 科	疾 患	担 当 医 師
消化器内科/血液内科/免疫内科	食道癌、胃癌、大腸癌	珍田 大輔、高畑 武功
	肝癌、脾癌、胆道癌	飯野 勢、高畑 武功
	血液疾患(白血病、多発性骨髄腫)、悪性リンパ腫	鎌田 耕輔、高畑 武功
呼吸器内科	肺癌	當麻 景章
内分泌内科/糖尿病代謝内科/感染症科	脾臓癌の内科治療(化学療法、外科術後の機能サポート)	丹藤 雄介
	内分泌腺癌(甲状腺、下垂体、副腎等)の内科的治療	高安 忍
腫瘍内科	食道癌、胃癌、大腸癌、脾癌、胆道癌、原発不明癌、GIST、希少がん、ゲノムパネル検査	佐藤 温
小児科	小児癌	照井 君典
呼吸器外科/心臓血管外科	肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔悪性腫瘍、悪性胸膜中皮腫	木村 大輔
消化器外科/乳腺外科/甲状腺外科	肝胆脾癌	袴田 健一、石戸 圭之輔、木村 憲央
	胃癌、食道癌	室谷 隆裕
	大腸癌	坂本 義之、諸橋 一
	乳癌	岡野 健介
整形外科	骨軟部腫瘍、転移性骨腫瘍	大鹿 周佐
	脊椎・脊髄腫瘍、転移性脊椎腫瘍	和田 簡一郎
皮膚科	皮膚悪性腫瘍	六戸 大樹
泌尿器科	前立腺癌、膀胱癌、腎癌、精巣癌、腎盂尿管癌	畠山 真吾、山本 勇人
眼科	眼内腫瘍、眼窩腫瘍、眼瞼腫瘍、角膜・結膜腫瘍	鈴木 幸彦
耳鼻咽喉科頭頸部外科	頭頸部癌	松原 篤、工藤 直美
放射線治療科	放射線治療一般、ハイパーサーミア	青木 昌彦
	密封小線源前立腺永久挿入法	青木 昌彦、廣瀬 勝己
	強度変調放射線治療、定位放射線治療	青木 昌彦
	RI内用療法(ヨード、ゾーフィゴなど)	畑山 佳臣、佐藤 まりこ
放射線診断科	肝癌などのIVR	対馬 史泰、掛端 伸也
産科婦人科	子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌(腹膜癌、卵管癌含む)、外陰癌、陰癌、絨毛性腫瘍	横山 良仁、重藤 龍比古
麻酔科/集中治療科	緩和医療(特に疼痛緩和)	木村 太
脳神経外科	脳腫瘍(良性・悪性共に)	浅野 研一郎
形成外科	悪性腫瘍切除後の再建、皮膚悪性腫瘍	漆館 聡志
小児外科	小児悪性固形腫瘍	平林 健
歯科口腔外科	口腔癌	小林 恒

※セカンドオピニオンの詳細及び各種用紙のダウンロードは、当院のホームページもしくは下記へご連絡ください。

【お問い合わせ・お申し込み先】

弘前大学医学部附属病院 がん相談支援センター TEL・FAX:0172-39-5174

弘前大学医学部附属病院
セカンドオピニオン外来あて

セカンドオピニオン申込書

訴訟等の目的に使用しないこと及び自由診療料金として定められた金額33,000円（税込）を支払うことに同意の上、以下の内容で、貴院のセカンドオピニオン外来受診を申し込みます。

申込日 令和 年 月 日 相談者氏名 印

患者	(フリガナ)		男	生年月日	(大正、昭和、平成、令和) 年 月 日 () 歳	
	氏 名					
	住 所 (連絡先)		〒 電話 () - () - () FAX () - () - ()			
※患者さんご本人が相談される場合は、「相談者」欄の記入は不要です。						
相談者	(フリガナ)		男	生年月日	(大正、昭和、平成、令和) 年 月 日	
	氏 名					
	住 所 (連絡先)		女	患者との続柄	本人・家族 ()	
現在の状況	疾患名		1. 2. 3.			
	紹介元医療機関	医療機関名	病院・医院・診療所			
		診療科・主治医名	科 先生			
		住 所 (分かる範囲で結構です)	〒 電話 () - () - () FAX () - () - ()			
	ご相談の具体的な内容 (ご自由にお書きください。別紙でも結構です。)					
※なるべく詳しくご記入ください。						

※本申込書をFAX (0172-39-5174) またはご郵送 (〒036-8563 青森県弘前市本町53 弘前大学医学部附属病院 がん相談支援センター宛て) ください。

■ 受付から帰宅までの手順

初診の患者さん

受付時間 8:30～10:30



総合受付

総合受付にある初診申込書に記載し、マイナンバーカードまたは保険証・紹介状とともに①初診受付窓口へ。
※FAXにて申込された方は初診申込書の記載の必要はありません。

① 初診受付窓口

初診申込書・保険証等をお預かりし、受付を行います。手続き完了後赤色のフォルダーをお渡しします。
※FAXにて事前申し込みされている方は、紹介医から渡された予約確認票と紹介状等もお出しください。



診 察

検査・レントゲン等については医師・看護師から説明いたします。



検査など

採血・レントゲン等の検査の方は各検査室にて検査を受けてください。

再来の患者さん

受付時間 8:00～11:00

※予約の方は上記の時間にかかわらず予約時間の前までに受付してください。



自動再来受付機

- ①診察券を入れてください。
 - ②受付完了ボタンを押すと診察券と受付票が出ます。
 - ③診察券と受付票を黄色フォルダーに入れてください。(フォルダーは受付機の横にあります。)
- ※診察券をお忘れの方、自動再来受付機で受付できなかった方は②再来受付窓口にお越しください。(8:00～)

複数の診療科に予約がある方は受付票に表示された順番どおりに受診してください。



診療科受付

初診の方は赤色フォルダーを診療科受付にお出しください。黄色フォルダーの方は、受付票に記載されている番号がディスプレイに表示されるか、お名前が呼ばれるまでお待ちください。
(診療科によっては、まず受付へお声をかけていただくところもあります。)

..... 診察終了後

診察が終わった方は、受付もしくは医師から受付票(院外処方の方は処方箋も)が入ったフォルダーを受け取り、次の診療科もしくは②会計受付窓口へ。

③ 料金収納窓口



自動精算機

会計番号表示機にお手持ちの会計番号票の番号が表示されましたら、自動精算機または③料金収納窓口でお支払いください。

クレジットカードでのお支払いもできます。

自動精算機からは領収証書と一緒に診療内容のわかる明細書が発行されますので忘れずにお持ち帰りください。(明細書の発行の有無は選択できます。)

※前日までの未納分および入院分については③料金収納窓口でお支払い願います。

※領収証書には予約券と薬剤引換券が付いています。次回予約または院内処方がある場合は印字されています。



お薬のある方



院内処方の方

お手持ちの薬剤引換券の番号が薬剤引換番号表示機に表示されましたら、薬剤引換券を薬剤引渡窓口へ提示しお薬をお受け取りください。



院外処方の方

院外の調剤薬局にてお薬をもらってください。

院外処方箋FAXコーナー(9:00~15:00)

院内に処方箋のFAXコーナーがあります。事前にFAXすることで薬局での待ち時間を短縮することができます。(手数料無料)

お薬のない方

② 会計受付窓口

受付票が入ったフォルダー(院外処方箋をお持ちの方は処方箋も)を窓口にお出しください。

- 毎月初回の受診日に保険確認をさせていただきます。
- 会計番号票をお渡ししますので、会計番号表示機にお手持ちの番号が表示されるまで、待合席でお待ちください。



お気をつけて
お帰りください。



診療科のご紹介



■ 消化器内科／血液内科／免疫内科



診療科長
櫻庭 裕丈

診療科長

櫻庭 裕丈

総医長

珍田 大輔

病棟医長

平賀 寛人

外来医長

消化器内科 高畑 武功
血液内科 鎌田 耕輔
免疫内科 蓮井 桂介

診療科の概要

当科では、消化器疾患・血液疾患・リウマチ膠原病を中心に診療を行っています。炎症性腸疾患、膠原病など多数の特定疾患の患者さんも通院されています。

消化管、上部消化管、下部消化管、肝胆膵、血液、がん化学療法、膠原病・リウマチ／炎症性腸疾患外来、心療内科外来と7つの専門外来を開設しています。いずれの専門外来も基本的には予約が必要となりますが、急を要する場合には電話で担当医師に相談して頂くことも可能です。

検査に関しては、上・下部消化管X線検査、上・下部内視鏡検査、腹部超音波検査、超音波内視鏡検査など多数の画像診断を行っています。最近では、バルーン内視鏡やカプセル内視鏡など新しい診断法にも取り組んでいます。検査も原則として予約制となりますが、緊急の場合はその限りではありません。

病棟は3グループ体制で診療を行っており、消化管・免疫グループは消化管の癌やポリープの内視鏡治療、炎症性腸疾患、関節リウマチ・全身性エリテマトーデスなどの膠原病の治療を、肝胆膵グループは主に肝細胞癌、ウイルス性肝炎、劇症肝炎、胆・膵内視鏡治療、重症急性膵炎などの診療を、血液化学療法グループは、造血器悪性腫瘍（悪性リンパ腫・白血病・骨髄異形成症候群・多発性骨髄腫など）、消化管癌化学療法、各種貧血、出血性疾患や血栓性疾患の診療を行っています。

主な連絡先

外来受付	入院病棟
外来診療棟2階南側 TEL:0172-39-5241	入院棟東6階 TEL:0172-39-5085

外来担当医及び専門分野

氏名	職名等	専門分野
櫻庭 裕丈	教授	消化器内科、免疫内科
玉井 佳子	教授 (輸血・再生医学)	血液内科
山形 和史	教授 (保健学科)	血液内科、消化器内科
佐藤 研	教授 (保健管理センター)	心療内科、消化器内科
高畑 武功	准教授 診療教授	消化器内科、血液内科
珍田 大輔	准教授 診療教授	消化器内科
平賀 寛人	准教授	消化器内科、免疫内科
菊池 英純	講師 (光学医療診療部副部長)	消化器内科
飯野 勢	講師	消化器内科
立田 哲也	講師	消化器内科
蓮井 桂介	助教 診療講師	消化器内科、免疫内科
鎌田 耕輔	講師	血液内科
吉田 健太	助教	消化器内科
佐藤 諭	助教	消化器内科
太田 真二	助教	消化器内科、免疫内科
浅利 享	助教	消化器内科
澤田 洋平	助教	消化器内科
立田 卓登	助教	血液内科

特徴・特色ある診療

●内視鏡治療

消化管内視鏡を用いた治療として、早期の消化管癌（食道、胃、大腸など）に対する粘膜切除術（EMR）、粘膜下層剥離術（ESD）を行っています。その他、食道静脈瘤硬化療法、消化管狭窄に対するステント留置やバルーンによる拡張術、胆管結石採石術など多数の内視鏡による治療を行っています。近年、食道アカラシアに対する内視鏡下筋層切開術（POEM）、再発食道癌に対する光線力学療法（PDT）、胃食道逆流症に対する内視鏡治療（ARMS）も行っております。また、カプセル内視鏡やバルーン内視鏡による小腸・大腸病変の精査・治療も行っています。

●肝疾患

自己免疫性肝疾患・非アルコール性脂肪性肝疾患の診断と治療、ウイルス性肝炎、肝硬変に対する抗ウイルス治療を行い、肝がんの発生を抑制するよう努めています。また、肝がんに対するラジオ波焼灼術や肝動脈化学塞栓療法、分子標的治療、化学療法を行っています。

●ヘリコバクター感染

消化性潰瘍や胃癌と密接な関連をもつヘリコバクターピロリ菌感染については、他の施設での除菌失敗例に対する除菌を行っています。また、ピロリ菌以外のヘリコバクター属の診断・治療も行っています。

●血液疾患

造血器腫瘍に対して強力な化学療法を主体とし、自己末梢血幹細胞移植併用大量化学療法も行っています。また、近年進歩している分子標的治療薬や免疫調節薬などの新規治療薬についても積極的に治療に導入しています。

●がん化学療法

悪性リンパ腫、消化器がんの診断および化学療法を殺細胞薬、分子標的薬を組み合わせながら主に外来で行っています。また患者さんの通院の負担軽減のため、関連病院との地域連携も積極的に行っています。

●自己免疫疾患

クローン病・潰瘍性大腸炎の難治例に対する抗TNF- α 抗体、抗IL-23抗体、抗インテグリン抗体、JAK阻害剤による分子標的治療および血球成分除去療法による粘膜治療を目指した治療、さらにSLE、強皮症、筋炎などに対する新規分子標的治療、免疫調節療法、関節リウマチについては超音波・MRI画像診断を駆使し分子標的薬による積極的な治療を行っています。また炎症性腸疾患に対する様々な治療も行っています。

●機能性消化管障害

機能性ディスぺプシア（FD）や過敏性腸症候群（IBS）などの疾患を中心とした機能性消化管障害に対して、症状の原因となる消化管運動異常、内臓知覚過敏、腸内細菌、心理社会的要因などの複合的な病態に沿った治療を行っています。

■ 循環器内科／腎臓内科



診療科長
富田 泰史

診療科長

富田 泰史

総医長

佐々木真吾

病棟医長

循環器内科 横山 公章

腎臓内科 藤田 雄

外来医長

循環器内科 花田 賢二

腎臓内科 奈川 大輝

主な連絡先

外来受付	入院病棟
外来診療棟2階南側 TEL:0172-39-5245	入院棟東4階 TEL:0172-39-5081 入院棟東5階 TEL:0172-39-5084

外来担当医及び専門分野

氏 名	職名等	専門分野
富田 泰史	教 授	循環器
中村 典雄	教 授 (保健学科)	腎 臓
島田美智子	教 授 (教育学部)	腎 臓
佐々木真吾	准教授	不整脈、循環器
木村 正臣	准教授 (不整脈先進治療学講座)	不整脈、循環器
村上 礼一	准教授 (先進移植再生医学講座)	腎 臓
藤田 雄	准教授 (地域医療学講座)	腎 臓
横山 公章	准教授 (脳卒中・血管内科学講座)	虚血性心疾患、循環器
花田 賢二	講 師	虚血性心疾患、循環器
濫谷 修司	講 師 (心臓病態先進治療学講座)	虚血性心疾患、循環器
伊藤 太平	講 師 (不整脈先進治療学講座)	不整脈、循環器
石田 祐司	講 師 (むつ下北地域医療学講座)	不整脈、循環器

診療科の概要

当科は、循環器疾患、腎臓疾患を中心に診療を行っています。
循環器疾患は、狭心症、心筋梗塞、不整脈、弁膜症、心不全をはじめとする心臓疾患のほか、高血圧、動脈硬化、脳血管疾患など幅広く診療を行っています。腎臓疾患は、血尿、蛋白尿、ネフローゼ症候群、腎炎、腎不全、全身性疾患に合併した腎疾患（とくに膠原病腎、糖尿病性腎症）、電解質異常、腎移植などの診療を精力的に行っています。

特徴・特色ある診療

●循環器疾患

救急医療を積極的に行っており、重症心疾患の患者さんを24時間体制で受け入れ、緊急カテーテル検査や経皮的冠動脈インターベンション（PCI）などを行っています。専門的治療として、不整脈に対するカテーテルアブレーション治療、突然死予防のための植込み型除細動器治療、心不全治療法としての心臓再同期療法などを行っています。最近では心房細動や心室頻拍に対するアブレーション治療を積極的に行い、良好な成績を収めています。さらに大動脈弁狭窄症などの構造的な心疾患に対する最先端カテーテル治療（TAVIなど）を心臓血管外科とともに実施しています。多くの救急ならびに専門治療を要する患者さんの受け入れのため、外来診療は専門外来、特殊再来のみとし、一般再来は地域の医療機関や開業医との連携による診療をお願いしています。

●腎疾患

慢性腎炎症候群、ネフローゼ症候群、膠原病、急性および慢性腎不全などを中心に、患者さんに最適と思われる医療を提供しています。特殊検査としては、腎臓超音波検査、分子生物学的検査の導入、腎生検による組織診断などを、治療手技としては各種薬物療法、血液透析や腹膜透析の導入、血液濾過、LDLアフェレーシス、血漿交換など最新の治療を行っています。最近、検診で尿蛋白や尿潜血を指摘され、原因検索のための腎生検が必要な患者さんが増加していますが、当科では2泊3日の短期入院で必要な検査を行っています。さらに泌尿器科と連携しながら、腎移植も積極的に推進しています。

■ 呼吸器内科／感染症科



診療科長
田坂 定智

診療科長

田坂 定智

総医長

當麻 景章

病棟医長

呼吸器内科 田中 寿志

感染症科 石岡 佳子

外来医長

呼吸器内科 當麻 景章

感染症科 牧口 友紀

診療科の概要

当科では肺癌をはじめとする呼吸器系の悪性腫瘍、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、呼吸器感染症を中心に診療を行っています。また間質性肺炎や非結核性抗酸菌症など専門性の高い疾患や比較的稀な疾患の診断、検査、治療も積極的に行っています。呼吸器不全のため在宅酸素療法が必要な患者さんも通院されています。

検査に関しては、通常の画像診断や呼吸機能検査に加え、気管支鏡や胸腔鏡といった内視鏡検査を積極的に行っています。

特徴・特色ある診療

肺癌に関しては、主に薬物療法を担当しておりますが、遺伝子解析などが治療を決定するうえで重要になります。当科では多施設共同研究(LC-SCRUM Asia)、包括的がんゲノムプロファイリング検査などを通して、より詳細な遺伝子解析を行うことにより、より多くの治療選択肢を検討しております。また、企業治験、臨床試験を通して新しい肺癌治療への取り組みも積極的に行っております。

間質性肺炎に関しては、東北初で気管支鏡による凍結生検を導入したり、放射線診断科、病理部とも協力して多職種合議(MDD)での診断を行うなどしております。

気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)に関しては、質問票、肺機能検査、インパルスオシロメトリーによる呼吸抵抗測定、呼気一酸化窒素測定といった検査をとおして総合的評価を行い、より適切な診断、治療に取り組んでおります。患者様ご自身が積極的に治療に取り組んでいただけるよう吸入、自己注射指導、呼吸器リハビリテーションなどで支援を行っております。

呼吸器感染症に関しては、非結核性抗酸菌症が増加傾向にありますが、専門的知識を有する医師は限られている状況にあります。当院では、複雑化した菌種の確定、薬剤感受性試験を適切に行い、注射抗菌剤、吸入抗菌剤も組み合わせた治療を行えるよう治療導入の指導、支援体制を整えております。

主な連絡先

外来受付	入院病棟
外来診療棟2階 TEL:0172-39-5245	入院棟東5階 TEL:0172-39-5084

外来担当医及び専門分野

氏 名	職名等	専門分野
田坂 定智	教 授	呼吸器
當麻 景章	講 師 診療准教授	呼吸器
田中 寿志	助 教 診療講師	呼吸器
牧口 友紀	助 教	呼吸器
糸賀 正道	講 師 (臨床検査医学講座)	呼吸器
石岡 佳子	助 手	呼吸器
白鳥 俊博	助 教 (高度救命救急センター)	呼吸器
坂本 博昭	助 教	呼吸器
秋田 貴博	病院助手 (高度救命救急センター)	呼吸器
小田切 遥	病院助手	呼吸器
小堀 由璃	病院助手	呼吸器
三浦 桐子	病院助手	呼吸器

■ 内分泌内科／糖尿病代謝内科



診療科長
藤田 征弘

診療科長

藤田 征弘

総医長

高安 忍

病棟医長

松木 恒太

外来医長

内分泌内科 村澤 真吾

糖尿病代謝内科 柳町 幸

診療科の概要

当科の外来は、毎週月、水の午前に新患外来を行っています。内分泌及び糖尿病の専門外来は月～金の毎日、月の午後に胆・膵外来を、主治医制のもと予約制で行っています。内分泌外来では、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺、電解質異常などの病気が多く紹介されて来ます。糖尿病外来では、初期から様々な合併症を抱えた患者さんまで幅広く紹介され、そのステージに合わせた診療を行っています。胆・膵外来では慢性膵炎や膵切除術後の内科的管理を中心に診療しています。その他にも脂質異常症、二次性高血圧、肥満、耐糖能異常、骨粗鬆症の診療も行っています。

基本的には、患者さんが何曜日に紹介されても、必ず各々専門医が外来に出ているようになっています。病棟ではグループ診療を行っており、各専門家が相談をしながら入院患者さんを診ています。いずれも各グループ間および他の診療科と密接な連携をとり、各疾患に対し総合的に取り組むことにより、いろいろな角度から診断と治療を行っています。

主な連絡先

外来受付	入院病棟
外来診療棟2階南側 TEL:0172-39-5249	入院棟東7階 TEL:0172-39-5088

外来担当医及び専門分野

氏 名	職名等	専門分野
藤田 征弘	教 授	糖尿病・内分泌
柳町 幸	准教授	糖尿病、膵臓病
高安 忍	准教授	内分泌
松橋 有紀	講 師	糖尿病、膵臓病
田辺壽太郎	講 師	糖尿病、脂質異常症
松木 恒太	講 師	糖尿病、脂質異常症
柳町 剛司	助 教	糖尿病
村澤 真吾	助 教	内分泌、糖尿病
中田 有紀	助 教	内分泌
木下 敬子	医 員	内分泌
浅利ゆう子	助 教	内分泌、糖尿病
西谷 佑希	助 教	糖尿病
濱浦 季穂	助 教	糖尿病
臼谷 真理	助 手	内分泌
田村亜由美	病院助手	糖尿病
樽澤 武房	病院助手	糖尿病
中村 遼馬	病院助手	糖尿病・膵臓病
三橋 研人	病院助手	糖尿病・膵臓病
丹藤 雄介	教 授 (保健学科)	糖尿病、膵臓病

特徴・特色ある診療

県内外における内分泌・糖尿病・代謝関連の診断と治療について、幅広く、患者さんを受け入れる体制を整えています。

● 内分泌疾患

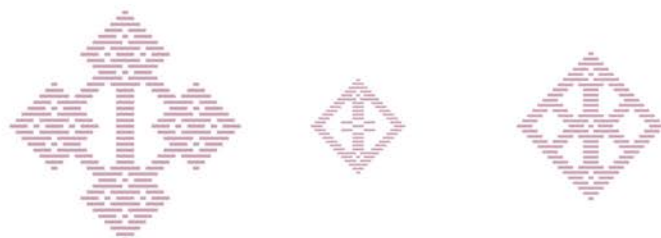
内分泌関係ではいろいろな種類の病気がありますが、各種機能検査、遺伝子診断、甲状腺エコーと穿刺吸引細胞診、放射線診断科との連携による各種選択的静脈血サンプリングによる部位診断などが可能で、典型的な症状が出る前に診断と治療ができます。

● 糖尿病疾患

糖尿病関係では2週間の教育入院システムを導入し、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士がチームを組んで診療にあたっています。病棟では糖尿病教室を開催しており、食事療法や運動療法を含めた糖尿病についての知識の啓蒙に努めています。糖尿病の合併症である腎症を持つ患者さんには、透析予防外来にて生活習慣の改善を含めた包括的医療を提供しています。24時間の血糖値を簡単に追跡できる持続血糖モニタリングシステムも導入しており、患者さんの治療に役立てています。

● 膵疾患

膵疾患では、慢性膵炎や膵切除術後の膵臓機能検査、治療を行っています。



■ 脳神経内科



診療科長

富山 誠彦

診療科長

富山 誠彦

総医長

村上千恵子

病棟医長

西嶋 春生

外来医長

村上千恵子

主な連絡先

外来受付	入院病棟
外来診療棟2階南側 TEL:0172-39-5252	入院棟東7階 TEL:0172-39-5088

外来担当医及び専門分野

氏 名	職名等	専門分野
富山 誠彦	教 授	脳神経内科一般、パーキンソン病、脳卒中
村上千恵子	准教授	脳神経内科一般、臨床神経生理学、神経免疫ボツリヌス治療、脳卒中
西嶋 春生	講 師	脳神経内科一般、パーキンソン病、脳卒中、認知症
引地 浩基	助 手	脳神経内科学
渋谷 絵里	医 員	脳神経内科学
三上 洋平	助 手	脳神経内科学
片貝 敦子	医 員	脳神経内科学
藤田 真子	医 員	脳神経内科学
清野 翔太	医 員	脳神経内科学
板澤 里歩	医 員	脳神経内科学
吉田 広樹	医 員	脳神経内科学
堀内 みちる	医 員	脳神経内科学
檜澤 丘泰	医 員	脳神経内科学
工藤 賢樹	医 員	脳神経内科学

診療科の概要

脳神経内科は、脳、脊髄、末梢神経、筋などの神経系の病気を総合的に扱う科です。具体的な症状としては、手足の筋力低下・感覚障害、視力・聴覚・言語・歩行の異常やめまい、意識障害、物忘れ、頭痛などです。当科は脳血管障害をはじめパーキンソン病やアルツハイマー病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症をはじめとする神経変性疾患、多発性硬化症や重症筋無力症、ギランバレー症候群などの免疫性神経疾患など、多種多様の神経難病を日常的に扱うほか、脳炎・髄膜炎などの神経感染症、脳卒中、てんかん、頭痛、認知症、筋疾患など、すべての神経疾患の診断治療をひろく手がけています。さらに、糖尿病患者やがん患者、脊椎疾患や外傷を含む全科にまたがった神経系障害・合併症の診断治療も行っています。

治療に当たっては先進的および標準的な治療手技を積極的に導入し続けているほか、難病克服のための共同開発に数多く取り組むなど、治療最優先の神経疾患診療を行っています。

特徴・特色ある診療

当科には日本神経学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本内科学会総合専門医、日本臨床神経生理学会専門医、日本認知症学会専門医、日本老年学会専門医がおります。北東北の神経疾患の中核病院として脳血管障害や脳炎・髄膜炎のような急性疾患から神経難病や認知症などの慢性疾患までの広い領域の脳神経内科診療を行っています。特にパーキンソン病やその関連疾患、ギランバレー症候群などの末梢神経疾患、多発性硬化症や重症筋無力症などの免疫性神経疾患に積極的に取り組んでいるほか、認知症の早期診断にも注力しています。またボツリヌス療法やバクロフェン髄注療法も手がけています。特にパーキンソン病治療や神経筋電気診断は当科が得意とする分野で、神経伝導検査・筋電図による末梢神経障害や筋疾患の診断を積極的に行っています。

■ 腫瘍内科



診療科長
佐藤 温

診療科長

佐藤 温

総医長

佐藤 温

病棟医長

斎藤 絢介

外来医長

斎藤 絢介

主な連絡先

外来受付	入院病棟
外来診療棟1階東側 TEL:0172-39-5378	入院棟東6階 TEL:0172-39-5085

外来担当医及び専門分野

氏 名	職名等	専門分野
佐藤 温	教 授	腫瘍内科、固形腫瘍
斎藤 絢介	助 教	腫瘍内科、固形腫瘍
陳 豫	助 手	腫瘍内科、固形腫瘍

診療科の概要

悪性腫瘍の治療は、手術、放射線、そして、薬物治療を集学的に行います。当科は、悪性腫瘍の薬物治療を臓器横断的に、かつ専門的に行う内科です。常に最新の抗がん薬や治療法の導入を心がけております。がん薬物治療を行う内科の専門科として、抗がん薬によって最大の治療効果を引き出し、最小の副作用で治療が続けられるように、また、がんに伴うさまざまな苦痛を和らげるために皆さんの治療を全力でサポートしていきます。

セカンドオピニオン・がんゲノム外来をはじめ、がん治療の診療相談も幅広く受け付けていますので、困ったことがありましたらいつでもお問い合わせ下さい。また、大学病院が担うべき新規治療の研究(新規抗がん剤など)を行っており、臨床試験への参加や、その他支持療法等の臨床研究への参加をお願いすることがあります。

特徴・特色ある診療

●消化器がん

消化器(食べ物の通り道に関与するからだの臓器)に発生するがんとして、食道・胃・膵・胆道・小腸・大腸などの抗がん剤治療を担当しています。症状緩和を目的とした手術や放射線治療の併用も常に検討していきます。通院しながら治療を長く続けられるようにサポートしています。

●原発不明がん

からだの至る所まで十分に検査しても、原因となる悪性腫瘍が確認できない転移性腫瘍を主体とした悪性腫瘍の一つです。原発不明がんの特徴にあわせて適切な抗がん剤を選択し治療を行っています。

●希少がん

患者さんの数が少なく、“まれ”ながんを希少がんといいます。軟部肉腫、GIST、神経内分泌腫瘍、神経内分泌がん等に対して、適切な抗がん剤を選択し治療を行っています。

●ゲノム医療

がんの組織を用いて遺伝子を同時に網羅的に調べ、遺伝子変異を明らかにすること(遺伝子情報)により、一人一人の体質や症状に合わせた治療(個別化治療)を提案します。

■ 神経科精神科



診療科長

中村 和彦

診療科長

中村 和彦

総医長

富田 哲

病棟医長

坂本 由唯

外来医長

富田 哲

主な連絡先

外来受付	入院病棟
外来診療棟4階北側 TEL:0172-39-5253	入院棟東8階 TEL:0172-39-5089

外来担当医及び専門分野

氏名	職名等	専門分野
中村 和彦	教授	児童青年精神医学 大人の発達障害
富田 哲	准教授	リエゾン精神医学、緩和ケア 合理的薬物療法
玉井 康之	講師	リエゾン精神医学 一般精神医学 児童青年精神医学
坂本 由唯	講師	一般精神医学 児童青年精神医学
長田 真人	助教	精神療法、認知行動療法
照井 藍	助手	一般精神医学
片貝 公紀	助手	一般精神医学
神 崇太	助手	一般精神医学
小澤 咲恵	助手	一般精神医学
足立みな美	助手	精神療法、認知行動療法
和田 一丸	教授 (保健学研究科) 診療支援医師	てんかん
栗林 理人	教授 (保健学研究科) 診療支援医師	児童青年精神医学
斉藤まなぶ	教授 (保健学研究科) 診療支援医師	児童青年精神医学 認知行動療法・薬物療法
大里 絢子	准教授 (保健学研究科) 診療支援心理師	精神療法、認知行動療法
三上 珠希	診療支援医師	児童青年精神医学
吉田 和貴	診療支援医師	一般精神医学

診療科の概要

当科では、精神科全般について診療を行っています。統合失調症、うつ病、躁うつ病、不安障害、睡眠障害、摂食障害、適応障害、アルコール依存症、薬物依存、認知症、てんかんなどが対象です。さらに子どもの精神科は不登校などの適応障害、自閉症、多動性障害などを診療しています。精神科の治療法としては、薬物療法、精神療法、認知行動療法、修正型電気けいれん療法など病状に応じた治療を行い、特に難治性統合失調症については、クロザピンを使った入院治療を行います。

特徴・特色ある診療

●薬物療法

統合失調症、うつ病、躁うつ病と最近のエビデンスベースドなガイドライン、アルゴリズムがあり、それらに基づく最新の薬物療法を行います。

●クロザピンによる入院療法

従来の薬物療法で効果不十分な難治性統合失調症の方に行います。副作用として起こりやすい顆粒球減少症に対しては血液内科の先生に御相談しながら対処します。

●認知行動療法

うつ病、不安障害の方に行います。認知のゆがみを明らかにすることで、行動を修正し症状を改善します。専門の臨床心理士が対応します。ただし、予約状況によりお断りさせていただく場合がございます。

●摂食障害

低年齢化が進んでいます。第一に身体管理が重要で、ガイドラインに基づいた身体管理をしながら、行動制限療法、精神療法、家族療法を行います。

●児童思春期

不登校、発達障害による学校での不適応、うつ状態、解離症状、虐待などを扱います。家庭、学校、関連機関との調整をしながら治療を行います。

●てんかん

てんかんには様々な種類があり、適切な診断が重要です。診断後合理的な薬物療法を行います。

●修正型電気けいれん療法

身体症状のため薬物治療が行えない方、薬物療法が効果不十分なうつ病、躁病、疼痛性障害に対して、入院治療によって麻酔下で行います。

●光療法

季節性うつ病に対して、光をあてることによって症状の改善をはかります。

●リエゾン精神医学

入院中の患者さんの各種精神症状に対応します。

●精神療法、遊戯療法

心理的な治療については専門の臨床心理士が担当して治療にあたります。

外来受診の方へ

初めて受診される方については、月・水・金曜日は原則として紹介状および予約が必要です。なお、木曜日は『就学前児童の発達診断外来』のみの受付です。

■ 小児科



診療科長

照井 君典

診療科長

照井 君典

総医長

工藤 耕

病棟医長

北川 陽介

外来医長

佐藤 知彦

主な連絡先

外来受付	入院病棟
外来診療棟3階南側 TEL:0172-39-5256	入院棟東3階 TEL:0172-39-5072

外来担当医及び専門分野

氏 名	職名等	専門分野
照井 君典	教 授	血液、腫瘍
遠野千佳子	教 授 (医学部保健学科)	血液、腫瘍
工藤 耕	准助教	血液、腫瘍
津川 浩二	講 師	腎疾患、膠原病、アレルギー
山本 達也	教育講師 助 手	神経疾患、新生児、発達
佐藤 知彦	助 教	血液、腫瘍
北川 陽介	教育講師 助 手	循環器、新生児
嶋田 淳	助 手	循環器、新生児
八木 弘子	助 教	内分泌・代謝
三浦 文武	助 手	循環器、新生児
伊東 竜也	助 教	神経疾患、新生児、発達
藤田 真司	病院助手	アレルギー、腎疾患

診療科の概要

高度の小児医療を幅広い分野にわたって行うために、専門グループ(血液、心臓、腎臓、神経、新生児)による診療を行っています。

各専門外来の曜日につきましては、別表(6ページ)をご覧ください。初診の際は、紹介状のほか、事前予約が必要です。ただし、緊急の場合はこの限りではありません。

病棟の診療体制は、各領域の専門医グループが一人の患者さんを担当するグループ診療を基本にしています。入院した患者さんが、現時点で最も良いと考えられる医療が受けられるように、十分にトレーニングされた専門医の集団が主治医として一人一人の患者さんの診療に当たります。病棟は、重症な患者さんの診療に24時間対応できるように複数の医師による当直体制を取っています。

特徴・特色ある診療

病診連携を考慮しつつ、患者さんの必要に応じた現時点でもっとも妥当と思われる診療を心掛けています。当科で行われている特色ある診療は以下のとおりです。

●血液グループ

血液疾患や腫瘍性疾患の患者さんの診療にあたっています。各疾患について全国規模の治療研究グループに所属して治療を行っています。また、造血細胞移植にも積極的に取り組んでいます。

●心臓グループ

先天性心疾患、不整脈、川崎病心血管後遺症などの小児心疾患の診療を行っています。産科との連携による胎児心疾患の診断・治療の進歩、複雑心奇形に対する心臓血管外科との協同診療体制の充実により一層の治療成績向上を目指しています。

●腎臓グループ

腎疾患、免疫疾患、アレルギー疾患を対象としています。特に、免疫抑制剤を用いた難治性腎疾患の新しい治療の開発に力を入れています。

●神経グループ

難治性てんかんや神経難病の診断・治療を中心に診療を行っています。



■ 呼吸器外科／心臓血管外科



診療科長
皆川 正仁

診療科長

皆川 正仁

総医長

木村 大輔

病棟医長

于 在強

外来医長

呼吸器外科 木村 大輔

心臓血管外科 川村 知紀

診療科の概要

診療分野は以下の2つの領域です。

- 1.心臓血管外科:** 狭心症・急性心筋梗塞などの虚血性心疾患、心臓弁膜症、胸部および腹部大動脈瘤、先天性心疾患、末梢血管(動脈・静脈)の疾患に対する外科的治療を行ないます。
- 2.呼吸器外科:** 肺癌を中心とする肺の腫瘍、縦隔の腫瘍、気胸、胸壁疾患、感染性肺疾患に対する外科治療を行ないます。

主な連絡先

外来受付	入院病棟
外来診療棟3階北側 TEL:0172-39-5259	入院棟東3階 TEL:0172-39-5072 入院棟東4階 TEL:0172-39-5081 入院棟東5階 TEL:0172-39-5084

外来担当医及び専門分野

氏 名	職名等	専門分野
皆川 正仁	教 授	心臓血管外科 (成人心臓血管外科)
大徳 和之	教 授 (医療安全学講座)	心臓血管外科 (先天性心疾患)
木村 大輔	准教授	呼吸器外科 (肺癌、縦隔腫瘍、漏斗胸)
齊藤 良明	講 師	心臓血管外科 (成人心臓血管外科)
小渡 亮介	講 師	心臓血管外科 (先天性心疾患)
川村 知紀	助 教	心臓血管外科 (成人心臓血管外科)
于 在強	助 教	心臓血管外科 (成人心臓血管外科)
渡邊伸之助	助 教	呼吸器外科(肺癌、縦隔腫瘍)
今村 優紀	助 教	心臓血管外科 (成人心臓血管外科)
谷 建吾	助 手	呼吸器外科(肺癌、縦隔腫瘍)
村田 賢祐	助 手	心臓血管外科 (成人心臓血管外科)
山崎 志穂	助 手	心臓血管外科 (先天性心疾患)
佐々木嵩洋	助 手 (高度救命救急センター)	呼吸器外科 (肺癌、縦隔腫瘍)
山口谷 健	病院助手	心臓血管外科 (成人心臓血管外科)
加藤 翼	病院助手	呼吸器外科 (肺癌、縦隔腫瘍)
村松 凱斗	病院助手	心臓血管外科 (成人心臓血管外科)

特徴・特色ある診療

●心臓血管外科

人工心肺装置を使用せず、動脈グラフトを多用した冠動脈バイパスを積極的に行い、良好な成績を取っています。弁膜症に対する治療では、僧帽弁の形成術や大動脈弁の温存手術を積極的に行なっています。大動脈瘤に対する治療では、合併症の発生予防を考慮した確実な治療を行なうとともに、高齢者などに対してはステント・グラフトによる治療も行なっています。さらに重症心不全に対する左室形成術や補助人工心臓を用いた治療にも取り組んでいます。末梢血管の治療では、重症の下肢の血管閉塞例に対しても、切断を回避すべく積極的に下肢の血管再建を行なっています。

●呼吸器外科

肺の手術に対して胸腔鏡を用いた手術を導入しています。さらに2022年5月にロボット手術を開始しました。胸腔鏡およびロボット手術は手術創を小さくすることが可能で、手術後の痛みが軽減され、術後の回復が早いという利点を有しています。進行肺癌に対しては、隣接臓器の合併切除など拡大手術により完全切除を図っています。また漏斗胸に対するNuss手術も導入し、侵襲の少ない外科治療を心がけています。



■ 消化器外科／乳腺外科／甲状腺外科



診療科長
石戸 圭之輔

診療科長

石戸 圭之輔

総医長

坂本 義之

病棟医長

木村 憲央

外来医長

消化器外科 諸橋 一

乳腺外科 岡野 健介

甲状腺外科 岡野 健介

主な連絡先

外来受付	入院病棟
外来診療棟3階北側 TEL:0172-39-5262	入院棟東2階 TEL:0172-39-5068

外来担当医及び専門分野

氏 名	職名等	専門分野
袴田 健一	教 授	消化器外科、乳腺外科 甲状腺外科、小児外科
石戸 圭之輔	准教授 診療教授	消化器外科 (肝胆膵・移植外科)
坂本 義之	准教授	消化器外科 (大腸肛門外科)
木村 憲央	講 師	消化器外科 (肝胆膵・移植外科)
諸橋 一	講 師	消化器外科 (大腸肛門外科)
三浦 卓也	講 師	消化器外科 (大腸肛門外科)
室谷 隆裕	助 教 診療講師	消化器外科(胃食道外科)
長瀬 勇人	講 師	消化器外科(肝胆膵外科)
岡野 健介	助 教 教育講師	乳腺外科、甲状腺外科
吉田 枝里	助 教 教育講師	消化器外科(胃食道外科)
若狭 悠介	助 教	消化器外科
鶴田 覚	助 教	消化器外科
原 裕太郎	助 教	消化器外科
小笠原健太	助 手	消化器外科
萩原 悠介	病院助手	消化器外科
市澤 愛郁	病院助手	消化器外科
山崎 慶介	病院助手	消化器外科
山田 貴大	医 員	消化器外科
阿部 純弓	病院助手	消化器外科
笠井 大貴	医 員	消化器外科
丹場 太陽	医 員	消化器外科
松本駿太郎	医 員	消化器外科
板矢 晶子	病院助手	消化器外科
亀山 優真	病院助手	消化器外科
横山 和樹	病院助手	消化器外科
吉原 悠貴	病院助手	消化器外科
浦田 風	病院助手	消化器外科
菅 葉月	病院助手	消化器外科
小林 佳奈	病院助手	消化器外科
楠山 航	病院助手	消化器外科

診療科の概要

当科は、一般病院のいわゆる「外科」に相当する診療を担当しています。臓器別では胃腸や肝胆膵などの“お腹の外科”、食道や乳腺など“胸の外科”の一部、さらに甲状腺など“頸の外科”の一部を扱っています。多くは「がん」の手術ですが、生体肝移植や他院では対応の難しい腹部救急診療などの高度医療も担当しています。手術創の小さい内視鏡外科手術も行っています。

大変広い分野を担当していますが、いずれの分野でも最先端の医療サービスを提供するため、専門グループに分かれて診療を行っています。また、痔やそけいヘルニア、胆石症などの一般的な外科疾患については、地域の医療機関と連携しながら対応しております。

特徴・特色ある診療

●肝胆膵・移植外科

主に肝臓がん、胆嚢(胆管)がん、膵臓がんに対する難易度の高い手術や、生体肝移植など大学病院ならではの高度医療を担当しています。

●胃・食道外科(上部消化管)

主に胃がんと食道がんの診療を行っています。特に、他院では対応の難しい進行がんの治療に力を入れています。早期がんに対しては、消化器内科と協力して内視鏡治療や腹腔鏡治療も行っています。食道がんに対しては、抗がん剤や放射線療法を併用した治療法も行っています。

●大腸・肛門外科(下部消化管)

主に大腸がん手術を担当しています。特に、直腸がんに対して肛門を残す手術を積極的に行っています。早期がんに対する腹腔鏡手術や、肝臓や肺への転移に対する手術も行っています。

●乳腺・甲状腺外科

乳がんと甲状腺疾患の手術を担当しています。特に、乳がんに対しては地域の医療機関と連携しながら、診断から治療までの専門診療を担当しています。

また、本院で乳がん手術を受けた方を対象としてリンパ浮腫外来も開設しております。



■ 整形外科



診療科長

石橋 恭之

診療科長

石橋 恭之

総医長

和田簡一郎

病棟医長

山内 良太

外来医長

藤田 有紀

主な連絡先

外来受付	入院病棟
外来診療棟1階北東側 TEL:0172-39-5265	第二病棟2階 TEL:0172-39-5266 第二病棟7階 TEL:0172-39-5275

外来担当医及び専門分野

氏 名	職名等	専門分野
石橋 恭之	教 授	スポーツ整形外科、 関節鏡視下手術、膝肩関節外科
津田 英一	教 授 (リハビリテーション科)	スポーツ整形外科、スポーツ傷害予防、 スポーツリハビリテーション
和田簡一郎	准教授	脊椎・脊髄外科
大鹿 周佐	講 師	骨・軟部腫瘍
熊谷玄太郎	講 師	脊椎・脊髄外科
木村 由佳	講 師	スポーツ整形外科、関節鏡視下手術
佐々木英嗣	講 師	スポーツ整形外科、関節鏡視下手術
大石 和生	助 教	関節外科
藤田 有紀	助 教	手外科、マイクロサージャリー
一戸 雅之	助 教	関節外科
山内 良太	助 教	骨・軟部腫瘍
武田 温	助 教	脊椎・脊髄外科
油川広太郎	助 手	脊椎・脊髄外科
小野 浩弥	助 教	外傷
對馬 誉大	助 教	スポーツ整形外科、関節鏡視下手術
坂本祐希子	助 教	スポーツ整形外科、関節鏡視下手術
古川 正和	助 教	手外科、マイクロサージャリー、外傷
猿賀 達郎	助 教	骨・軟部腫瘍
山内 翔平	助 教	スポーツ整形外科、関節鏡視下手術
田中 大	非常勤講師	リウマチ
飯尾 浩平	非常勤講師	スポーツ整形外科

診療科の概要

整形外科は、四肢および脊椎の病気や外傷の治療を扱う科です。主に、骨・関節・筋肉・靱帯・腱・脊髄・神経の病気、外傷による損傷、四肢の先天性疾患などの治療や研究を行っております。このような幅広い分野で適切な医療サービスを提供するため、各専門グループに分かれてから専門性の高い治療を行っております。

特徴・特色ある診療

整形外科は、種々の原因による四肢および脊椎の外傷・障害の治療を行っています。

対象となる疾患は幅広く、小児から高齢者にわたる四肢および脊椎の痛み・変形・機能障害(運動障害・感覚異常など)を生じるあらゆる疾患が含まれます。このような幅広い分野で適切な医療サービスを維持するために、各専門グループに分かれ治療に当たっており、各整形外科開業医又は関連病院よりの紹介患者への治療が多くなっているのが特徴です。

●脊椎外科

椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、頸髄症、側弯症、脊髄空洞症、脊髄腫瘍、脊椎外傷に対して、術中モニタリング、ナビゲーション、顕微鏡を用いて安全に、低侵襲に手術治療を行っています。

●スポーツ整形外科

スポーツ障害・外傷の治療・予防を行っています。前十字靱帯再建術をはじめ内視鏡を用いて膝・肩・肘・足などの低侵襲な治療を行っている他、自家培養軟骨細胞移植術、膝周囲骨切り術、ナビゲーションを用いた人工膝関節置換術などを行っています。

●骨軟部腫瘍外科

頭頸部や中枢神経腫瘍を除く、ほぼ全ての領域の骨や軟部組織(筋肉、神経、血管、脂肪等)から発生する良・悪性腫瘍の診断と治療を専門としています。希少がんである肉腫に対しても、専門医が集学的治療を実践しています。

●関節外科

小児の股関節疾患(股関節脱臼、大腿骨頭すべり症、ペルテス病など)に対する保存治療や手術治療を行っています。成人の股関節や膝関節の疾患(変形性関節症、骨壊死など)に対しては、骨切り術や人工関節置換術を行っています。

●手外科・外傷外来

四肢の骨折から骨盤骨折、特に多発外傷における骨折治療や、軟部組織損傷を伴う重度四肢外傷の治療を行っています。また手の変性疾患や外傷や先天的に欠損した組織の再建としてマイクロサージャリーを用いた組織移植や、骨延長による機能再建も行っています。

●女性アスリート外来

女性アスリートを対象に、競技レベルに関わらず楽しく健康にスポーツ活動ができるようにサポートをしています。整形外科医だけでなく産婦人科医や理学療法士などがチームとなって診療をしています。

●リウマチ外来

主に関節リウマチの診断、治療を行っています。免疫抑制剤を用いた薬物治療を行いながら、変形が生じた関節には装具治療、手術治療を行います。整形外科の各グループ、リハビリテーション科、膠原病内科等と協力して治療を進めてまいります。

●PRP外来

変形性関節症に伴う関節内軟骨損傷、半月板損傷・関節炎・関節内靱帯損傷および 腱付着部炎・腱障害・筋損傷・関節外靱帯損傷に対して多血小板血漿(Platelet-rich plasma:PRP)を用いた再生医療(自由診療)を行っています。

●小児整形外科外来

小児の股関節疾患(股関節脱臼、大腿骨頭すべり症、ペルテス病など)や手・足部疾患、脊椎疾患に対する保存治療や手術治療を行っています。

■ リハビリテーション科



診療科長
津田 英一

診療科長

津田 英一

総医長

藤田 彩香

病棟医長

松田 尚也

外来医長

藤田 彩香

主な連絡先

外来受付	入院病棟
第二病棟1階 TEL:0172-39-5318	第二病棟7階 TEL:0172-39-5275

外来担当医及び専門分野

氏名	職名等	専門分野
津田 英一	教授	リハビリテーション全般 アスレティック・リハビリテーション がん患者リハビリテーション ロボットリハビリテーション
大鹿 周佐	講師	運動器リハビリテーション がん患者リハビリテーション
松田 尚也	助教	リハビリテーション全般 脳血管疾患リハビリテーション がん患者リハビリテーション
武田 温	助教	運動器リハビリテーション 脊椎・脊髄リハビリテーション
藤田 彩香	助手	リハビリテーション全般 脳血管疾患リハビリテーション がん患者リハビリテーション 摂食・嚥下リハビリテーション
石山 浩明	医員	リハビリテーション全般
青木 恵	非常勤講師	リハビリテーション全般 小児・障害児リハビリテーション

診療科の概要

リハビリテーション科は、医師6名、理学療法士15名、作業療法士7名、言語聴覚士3名、看護師1名、事務職員3名の体制で診療を行っています。

院内各診療科において入院治療が必要な患者さんを対象とした急性期リハビリテーションを中心に行っています。一方、長期にわたってリハビリテーションが必要な患者さんに対しては、リハビリテーション科入院あるいは外来通院という形で対応しています。

特定機能病院としてより高度な医療へのニーズに対応できるよう、従来からの脳血管疾患等リハビリテーション、運動器リハビリテーションに加え、がん患者リハビリテーション、呼吸器リハビリテーション、心大血管疾患等リハビリテーション、言語・嚥下リハビリテーションでは、経験豊富な認定セラピストによるリハビリテーションプログラムを提供しています。

特徴・特色ある診療

●脳血管疾患等リハビリテーション

脳神経外科と共同で脳卒中ケアユニットを構成し、超早期から離床、機能回復に向けたリハビリテーションを行っています。

●アスレティック・リハビリテーション

整形外科で治療を受けたスポーツ選手に対しては、早期スポーツ復帰や再発予防を目指しスポーツ特異性を考慮したリハビリテーションを提供しています。

●ハンドセラピー

損傷・障害を受けた手に対して、日常生活での実用性獲得を目指し、機能回復のリハビリテーションや装具・自助具の作製を行います。

●ロボットリハビリテーション

難病に指定されている神経筋疾患に対して、最新のロボット工学技術を応用したニューロリハビリテーションを導入しています。脳・脊髄疾患に対しても適応を拡大中です。

●摂食・嚥下リハビリテーション

中枢神経疾患によって生じた嚥下機能障害に対するリハビリテーションに加え、手術前後の高齢者に対しては誤嚥性肺炎予防のための嚥下機能の評価・訓練、摂食指導を行っています。耳鼻咽喉科と共同で嚥下内視鏡による評価も行っています。

●心大血管疾患リハビリテーション

循環器内科と共同で、心機能の回復、運動耐容能の改善・再発予防に向けたリハビリテーションを行っています。

●痙縮に対する治療

脳や脊髄の疾患によって生じた手足の痙縮（筋肉のつっぱり）に対して、内服薬、ボツリヌス療法、物理療法などリハビリテーションを組み合わせで行っています。

■ 皮膚科



診療科長
赤坂 英二郎

診療科長

赤坂 英二郎

総医長

松崎 康司

病棟医長

原 憲司

外来医長

六戸 大樹

主な連絡先

外来受付	入院病棟
外来診療棟2階北側 TEL:0172-39-5268	第二病棟8階 TEL:0172-39-5281

外来担当医及び専門分野

氏 名	職名等	専門分野
赤坂英二郎	教 授 診療科長	皮膚科学、遺伝性皮膚疾患 角化症・水疱症
松崎 康司	准教授	皮膚科学、膠原病
六戸 大樹	講 師	皮膚科学、皮膚腫瘍
相樂 千尋	助 教	皮膚科学、レーザー
古川 和仁	助 教	皮膚科学、乾癬 アトピー性皮膚炎
松本 実か	助 教	皮膚科学
原 憲司	助 手	皮膚科学、皮膚腫瘍
吉川 未雪	助 手	皮膚科学
皆川 智子	助 教 診療講師 (検査部)	皮膚科学

診療科の概要

皮膚疾患全般の診療を行っています。専門的な疾患でも、初診の場合は午前中の新患外来を一度受診していただいております。

専門外来では、時代のニーズに即応すべく重要疾患ごとに診療班が形成されており、レーザー外来(あかあざ)、遺伝外来(遺伝相談)、膠原病外来、水疱症外来(天疱瘡、類天疱瘡、表皮水疱症)、腫瘍外来(良性・悪性腫瘍)、アトピー・乾癬外来を設定し、それぞれ医療相談ならびに治療が行われています。

特徴・特色ある診療

遺伝性皮膚疾患の診療、皮膚腫瘍の治療に主眼を置いています。さらに、血管腫に対応できるレーザー装置を備え、これまで治療手段に乏しかった疾患に対しても治療を行っています。アトピー・乾癬についても専門的な治療を行っています。

●遺伝性皮膚疾患

先天性表皮水疱症、ポルフィリン症、腸性肢端皮膚炎、遺伝性掌蹠角化症、先天性魚鱗癬、ダリエ病、弾性線維性仮性黄色腫をはじめ、多数の遺伝性皮膚疾患について遺伝子診断ならびに遺伝相談を行っています。

●皮膚悪性腫瘍

種々の皮膚悪性腫瘍の診断から外科的治療および化学療法にいたる一連の医療を提供できる県内唯一の施設です。またセンチネルリンパ節生検は県内有数の件数・経験を有しています。

●アトピー・乾癬

外用などの基本的な治療や生活指導から生物学的製剤やJAK阻害剤まで幅広く診療を行っています。

■ 泌尿器科



診療科長

畠山 真吾

診療科長

畠山 真吾

総医長

山本 勇人

病棟医長

山本 勇人

外来医長

岡本 哲平

主な連絡先

外来受付	入院病棟
外来診療棟3階南側 TEL:0172-39-5271	第二病棟5階 TEL:0172-39-5272

外来担当医及び専門分野

氏名	職名等	専門分野
畠山 真吾	教授	泌尿器癌、腎移植、血液透析
山本 勇人	准教授	泌尿器科一般、小児泌尿器科
今井 篤	准助教	泌尿器科一般、血液透析
岡本 哲平	講師	泌尿器科一般
藤田 尚紀	講師	泌尿器科一般
相馬 理	講師	泌尿器科一般
成田 拓磨	助教	泌尿器科一般
小玉 寛健	助教	泌尿器科一般、腎移植、血液透析
濱谷 智子	助教	泌尿器科一般
尾崎 魁	助手	泌尿器科一般
佐々木大地	病院助手	泌尿器科一般
三浦 佑規	病院助手	泌尿器科一般
米山 文哉	病院助手	泌尿器科一般
櫻井 悠	病院助手	泌尿器科一般
米山 安那	病院助手	泌尿器科一般

診療科の概要

泌尿器科では副腎と尿路(腎臓、腎盂、尿管、膀胱、尿道)および、男性生殖器(精巣、前立腺など)の疾患に対して外科手術を主体とした治療を行います。主な疾患としては前立腺癌、膀胱癌、腎癌腎結石、尿管結石、腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺肥大症などによる排尿障害や尿失禁、腎不全、男性不妊症などが対象になります。

各種腹腔鏡手術、前立腺癌に対する小線源療法(ブラキ療法)やIMRT療法、腎移植、ロボット支援手術など最新の方法を積極的に取り入れています。

特徴・特色ある診療

排尿障害から腎移植まで幅広い泌尿器疾患を扱います。関連医療機関との密接な病診療連携によって、質が高く効率のよい医療を提供します。

●内視鏡・腹腔鏡手術・ロボット支援手術

患者さんに優しい内視鏡手術、腹腔鏡手術、ロボット支援手術を行っています。

●前立腺癌治療

前立腺癌では安定した成績を誇る低侵襲前立腺全摘術(内視鏡下小切開)と最新のロボット支援手術、小線源療法(ブラキ療法)を行っています。放射線治療科と協力して質の高い前立腺癌治療を提供しています。放射線治療の場合も当科が窓口になります。



●膀胱癌治療

膀胱癌でも優れた治療成績をあげており、患者さんの負担の少ない化学療法とQOLを重視した回腸代用膀胱(弘前膀胱)を提供します。

平成23年度からロボット支援手術による膀胱全摘除術を開始しました。

●腎移植

当院の腎移植チームは優れた移植技術を持ち、質の高い移植医療を提供しています。

■ 眼科



診療科長

上野 真治

診療科長

上野 真治

総医長

鈴木 幸彦

病棟医長

丹藤 利夫

外来医長

前田奈津姫

主な連絡先

外来受付	入院病棟
外来診療棟4階南側 TEL:0172-39-5274	第二病棟7階 TEL:0172-39-5275

外来担当医及び専門分野

氏 名	職名等	専門分野
上野 真治	教 授	眼科一般、網膜硝子体疾患 遺伝性網膜疾患
鈴木 幸彦	准教授 診療教授	眼科一般、網膜硝子体疾患 糖尿病網膜症、網膜循環障害
盛 泰子	医 員	眼科一般、網膜硝子体疾患
工藤 朝香	医 員	眼科一般、斜視・弱視
前田奈津姫	助 教	眼科一般、緑内障、眼腫瘍 網膜硝子体疾患
山内 宏大	助 教	眼科一般、 涙道・眼腫瘍、緑内障
丹藤 利夫	助 教	眼科一般、斜視・弱視、 網膜硝子体疾患
原 藍子	助 教	眼科一般、遺伝性網膜変性疾患
古川 智美	助 手	眼科一般、斜視・弱視
小堀 宏理	助 手	眼科一般、角膜疾患
奈良 馨	医 員	眼科一般
鳴海 友洋	医 員	眼科一般
古川 亜美	医 員	眼科一般
原 将馬	医 員	眼科一般
藤林照太郎	医 員	眼科一般
井村詠太郎	医 員	眼科一般
尾崎 裕之	医 員	眼科一般
小田桐由佳	医 員	眼科一般
谷田 遥佳	医 員	眼科一般
吹田 淑子	研究医	緑内障

診療科の概要

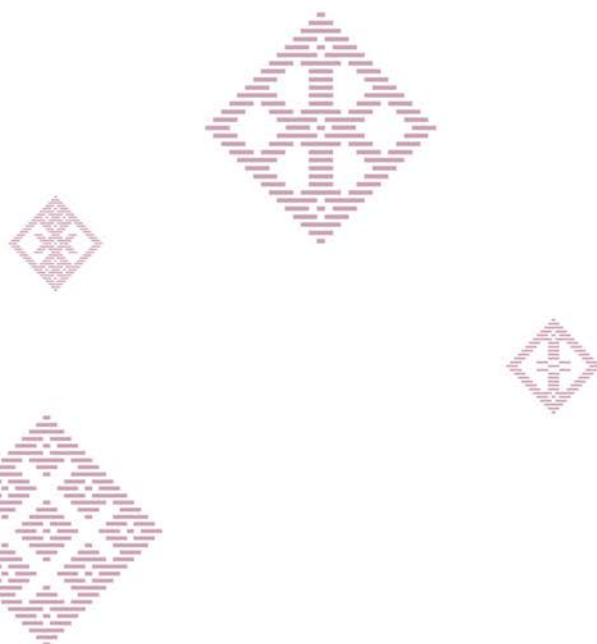
眼科は皆様よくご存じのとおり、眼に関する病気を担当しています。眼に関する病気と言ってもまぶたや眼の表面の腫れや充血といった眼球の外側から、白内障、緑内障や網膜剥離といった場合によっては手術が必要となる重症な眼の内部の病気まで非常にたくさんの種類があります。また最近日本で増えている糖尿病に合併する眼の病気や加齢にともなう眼の病気、そして角膜移植が必要な病気などもあります。眼科ではこれらの病気に対して大学病院として特に専門的で高度な医療を必要とする方を対象に外来と入院の両面で診療を行っています。最近では国の厳しい医療予算の効率的運用の必要性から、各医療機関の役割分担の考え方が進み、大学病院では他の医療機関や診療科から紹介された患者の方々の診療が中心になります。

初めて受診される方は、疾患ごとに当科の新患担当医に振り分けられ、診察いたします。他の医院や病院からの紹介状をご持参下さい。診察の結果、必要に応じて各種の検査が必要になりましたら予約制で対応します。そして新患担当医の判断で次の診療が各専門外来への予約診療となることもあります。また、眼に関する救急医療にも可能な限り対応させていただきます。

特徴・特色ある診療

加齢黄斑変性に対しては抗新生血管薬の注射と光線力学治療（レーザー治療）を病状に応じて行っています。光線力学治療は日帰り入院で行います。白内障手術も特に全身疾患の合併症がない限り、2泊3日の短期入院にて行います。

外来の専門外来は、緑内障、屈折・斜視、血管、網膜、角膜の5つに分かれています。



■耳鼻咽喉科頭頸部外科



診療科長

松原 篤

診療科長

松原 篤

総医長

工藤 直美

病棟医長

後藤 真一

外来医長

高畑 淳子

主な連絡先

外来受付	入院病棟
外来診療棟4階南側 TEL:0172-39-5277	第二病棟4階 TEL:0172-39-5278

外来担当医及び専門分野

氏名	職名等	専門分野
松原 篤	教授	アレルギー、腫瘍
高畑 淳子	講師	アレルギー、睡眠時無呼吸
工藤 直美	講師	腫瘍
後藤 真一	助教	中耳、難聴、補聴器
原 隆太郎	助教	腫瘍、難聴、補聴器、嗅覚
野村 彩美	助教	腫瘍、アレルギー
三橋 友里	助教	耳鼻科一般、睡眠時無呼吸、嗅覚
工藤 玲子	助教	中耳、嗅覚
松下 景	医員	耳鼻科一般
松下 大佑	病院助手	耳鼻科一般
福岡 侑	病院助手	耳鼻科一般
中村 千紘	病院助手	耳鼻科一般
出石 りさ	病院助手	耳鼻科一般
内山 慈子	病院助手	耳鼻科一般
小山内宏圭	病院助手	耳鼻科一般

診療科の概要

当科の外来診療の構成は、月、水、金曜日の新患、一般外来および、火、木曜日の専門外来となっています。診察は、原則として全て予約制で、新患の方は、他医療機関からの紹介状が必要です。

専門外来は下記のとおりですが、一般外来にて所定の検査後の診察となりますので、直接受診することは出来ません。

特徴・特色ある診療

●難聴

当科は、青森県内唯一の人工内耳埋込手術の認可施設でもあることから、先天性、後天性を問わず、難聴者の聴力改善に取り組んでおります。また難聴の原因となる遺伝子の検査も行っており、難聴発症の原因に応じた適切な治療を行っております。

●中耳疾患

当科では、真珠腫性中耳炎等に対する鼓室形成術を数多く施行しています。慢性穿孔性中耳炎(鼓膜穿孔)に対しては、外来通院での鼓膜穿孔処置、短期入院による鼓膜形成術のほか、最近は鼓膜再生治療も行っています。耳硬化症に対するアブミ骨手術も積極的に行っています。

●突発性難聴

突発性難聴をはじめとする急性感音難聴においては、その診断および治療に力を入れています。特に治療に関しては、突発性難聴急性期におけるステロイド鼓室内注入療法を導入しており、内服や点滴治療に比べて良好な治療成績を得ています。

●頭頸部腫瘍

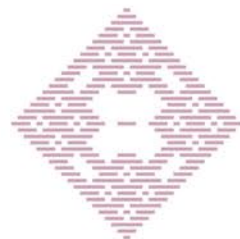
頭頸部癌に対して、手術治療や放射線治療、抗癌剤治療といった集学的な治療を行い、生命予後の改善に努めています。また再発・転移癌に対しては抗癌剤治療だけでなく、免疫療法も積極的に行っております。

●アレルギー

花粉症に対する免疫療法に力を入れています。また、難治性中耳炎として知られる好酸球性中耳炎(耳の喘息)の診断・治療にも積極的に取り組み、良好な成績をあげています。

●嗅覚外来

嗅覚障害に対する治療を専門的に行っています。当外来受診時は毎回の嗅覚検査を基本としており、他覚的評価に基づいた治療を行っています。また、喉頭摘出術後の嗅覚リハビリテーションにも取り組んでいます。



■ 産科婦人科



診療科長
横山 良仁

診療科長

横山 良仁

総医長

重藤龍比古

病棟医長

伊東 麻美

外来医長

福原 理恵

主な連絡先

外来受付	入院病棟
外来診療棟3階南側 TEL:0172-39-5283	第二病棟3階 TEL:0172-39-5284

外来担当医及び専門分野

氏 名	職名等	専門分野
横山 良仁	教 授	婦人科腫瘍学
樋口 毅	教 授	女性医学
重藤龍比古	准教授	婦人科腫瘍学
福原 理恵	准教授	生殖医学(不妊・不育)
横田 恵	講 師	生殖医学(不妊・不育)
伊東 麻美	講 師	周産期医学(産科)
飯野 香理	講 師	女性医学、周産期医学(産科)
松村由紀子	助 教	婦人科腫瘍学
赤石 麻美	助 教	婦人科腫瘍学、生殖医学
大石 舞香	助 教	周産期医学(産科)、女性医学
水沼 模人	助 教	婦人科腫瘍学
門ノ沢結花	助 教	婦人科腫瘍学
追切 裕江	助 教	婦人科腫瘍学
黒瀧 紗希	助 手	
内田 苑佳	医 員	
佐藤 真紀	医 員	
三上 智香	医 員	
田名部里奈	医 員	
田口こころ	医 員	
立崎 善郎	医 員	
葉袋 真帆	医 員	

診療科の概要

産婦人科診療は、周産期医学(産科)、婦人科腫瘍学、生殖医学(不妊・不育)、女性医学(更年期)の4本柱からなります。スタッフ全員が産婦人科専門医で、さらに高度の専門性を求められる周産期専門医、婦人科腫瘍専門医、細胞診専門医、生殖医療専門医、内視鏡技術認定医などのサブスペシャリティーを持つスタッフも揃っています。

一般外来は、新患、再来ともに水曜日を除く平日の午前中に診療しています。水曜日は原則的に妊婦健診のみです。その他、産科外来、腫瘍外来、不妊外来、生殖補助医療外来、内視鏡外来、健康維持外来などの専門外来を設けています。

産科は周産母子センターを拠点として、主に重症の胎児異常や母体合併症をもったハイリスク妊娠を扱っています。婦人科は入院患者の約80%を占める悪性腫瘍の集学的治療が中心です。不妊症・不育症は系統的な検査を基に治療方針を相談して決めており、一般的な治療から最先端の生殖医療までサポートしています。女性医学では、更年期障害、骨粗鬆症、尿失禁、性交痛など閉経後女性に特有な疾患の予防と治療のみならず、将来のQOLを考慮した閉経期女性の健康管理を行っています。

また、2021年度より整形外科、リハビリテーション科と連携し女性アスリート外来を開設いたしました。

特徴・特色ある診療

●産科

妊娠高血圧症候群や糖代謝異常妊娠などの他、種々の母体合併症妊娠に対応しています。

また妊娠高血圧症候群や妊娠糖尿病は将来の生活習慣病のリスクとなることから、全国でも数少ない長期フォローアップ外来を開設しています。

さらに出生前診断では、特に胎児心臓超音波診断に重点をおき、産科医療機関としては東北で唯一専門施設に認定されています。県内唯一の妊娠と薬情報センター拠点病院として、妊娠と薬外来も開設しています。

●婦人科悪性腫瘍

全国に先駆けて「卵巣がん超音波検診」を確立し、その後の2次検診と治療を行っています。

悪性腫瘍の集学的治療(手術療法・放射線療法・化学療法)を行っています。術後化学療法を院内の外来化学療法室を利用して行っています。妊孕性温存目的に広汎子宮頸部摘出術や、子宮頸癌、ならびに子宮体癌に対するロボット支援手術も行っています。

●不妊症・不育症

専任の胚培養士がおり、多くの生殖補助治療の実施件数があり、良好な成績をおさめています。

不育症に対する系統的な検査とヘパリン・アスピリン療法、免疫グロブリン療法などを積極的に行っています。

●女性医学

更年期障害や骨粗鬆症を中心に最新の治療を行っています。女性アスリート外来の診療も行っています。

●手術

婦人科良性腫瘍や不妊症に対しては、入院期間が短く負担が少ない腹腔鏡・子宮鏡・卵管鏡などの内視鏡手術や腔式手術を積極的に採用しています。東北・北海道初の先進医療下のロボット支援下広汎子宮全摘術を実施しています。東北・北海道でロボット手術の見学施設として、他施設の術者の養成を行っています。

■ 放射線治療科



診療科長
青木 昌彦

診療科長

青木 昌彦

総医長

廣瀬 勝己

病棟医長

佐藤 まり子

外来医長

田中 円葵

診療科の概要

放射線治療科では各種がんや良性疾患に対するリニアックによる外部照射を中心に、子宮がんに対するイリジウム遠隔操作式密封小線源治療(RALS)、前立腺がんに対するヨウ素125を用いた密封小線源治療、放射性ヨード内用療法などの核医学治療を行います。院内のみならず院外からも治療の依頼をお受けいたします。依頼される場合は事前に電話(放射線治療科外来受付)で予約を取得いただき、当日は診療情報提供書を持参くださいますようお願いいたします。多くの疾患で外来通院による治療が可能です。一般病床も有しておりますので入院での治療も可能です。

主な連絡先

外来受付	入院病棟
外来診療棟B1階東側 TEL:0172-39-5280	第二病棟8階 RI病棟

外来担当医及び専門分野

氏 名	職名等	専門分野
青木 昌彦	教 授	放射線治療
畑山 佳臣	准教授	放射線治療
廣瀬 勝己	講 師	放射線治療
佐藤 まり子	助 教	放射線治療
田中 円葵	助 教	放射線治療
藤岡一太郎	助 手	放射線治療

特徴・特色ある診療

放射線治療は脳腫瘍、頭頸部腫瘍、肺がん、食道がん、乳がん、前立腺がん、子宮がん、悪性リンパ腫、各種がんによる転移病巣などに対して、根治的治療から緩和治療(骨転移による癌性疼痛など)まで幅広く実施され、さらに甲状腺眼症やケロイドなどの良性疾患も治療対象としています。外部照射では、通常の放射線治療の他、早期肺がんに対する体幹部定位放射線治療や頭頸部腫瘍や前立腺がんに対する強度変調放射線治療などの高精度放射線治療も行っています。小線源治療は、子宮がんに対するイリジウム遠隔操作式密封小線源治療(RALS)、前立腺がんに対するヨウ素125線源を用いた永久刺入密封小線源治療を行っています。核医学治療では、青森県内で唯一のRI病棟を有する医療機関であり、甲状腺がんやバゼドウ病に対する放射性ヨード内用療法、前立腺がんの骨転移に対するラジウム治療、神経内分泌腫瘍に対する「ルタテラ静注」を用いた治療も行っています。ハイパーサーミア(がん温熱療法)も行っています。

■ 放射線診断科



診療科長

掛 田 伸 吾

診療科長

掛 田 伸 吾

総医長

三 浦 弘 行

病棟医長

掛 端 伸 也

外来医長

対 馬 史 泰

主な連絡先

外来受付	入院病棟
外来診療棟B1階 TEL:0172-39-5280	第一病棟2階 TEL:0172-39-5281

外来担当医及び専門分野

氏 名	職名等	専門分野
掛 田 伸 吾	教 授	画像診断、インターベンション
三 浦 弘 行	講 師 診療教授	画像診断、核医学、PET
対 馬 史 泰	講 師	画像診断、核医学 PET、インターベンション
掛 端 伸 也	助 教 診療講師	画像診断、核医学、PET インターベンション、がん治療
藤 田 大 真	助 教	画像診断、インターベンション
飯 田 沙 野	助 教	画像診断
辰 尾 宗 一 郎	助 教	画像診断、インターベンション
坂 下 仁 菜	医 員	画像診断
新 宅 知 博	医 員	画像診断
松 山 寛	医 員	画像診断
石 本 優 香	医 員	画像診断
梅 村 芳 史	医 員	画像診断
笠 井 星 良	医 員	画像診断
佐 々 木 美 穂	医 員	画像診断
松 橋 周 一	医 員	画像診断
小 澤 天 祐	医 員	画像診断
齋 藤 佳 南	医 員	画像診断
齋 藤 陽 子	教 授 (保健学科)	画像診断

診療科の概要

放射線診断を担当します。X線CT、MRI(磁気共鳴断層装置)、放射性医薬品を用いた核医学検査(PET-CT、SPECT-CT)による画像診断ならびに血管造影とインターベンショナルラジオロジー(カテーテル治療)を行います。

院外からの検査のご依頼をお受けいたします。依頼される場合には事前にご連絡をいただき、当日は診療情報提供書を持参くださいますようお願いいたします。

特徴・特色ある診療

放射線診断は院内におけるX線CT、MRI、PET-CT、一般核医学の検査を行い、全検査に対して即日レポートしております。X線CTは、2台のdual-energy CT、1台の320列多断層型CTを導入し、がんや心血管などのCT診断を行っています。MRTは1.5Tを1台、3Tを2台備え、特に神経系、骨軟部、骨盤領域の精査に用いています。また、PET-CTによる診断を行い、特にがん診断に威力を発揮しています。

インターベンションでは頭頸部領域、胸腹部、骨盤内および末梢血管系の血管内治療に貢献しています。またインターベンションを用いた救急疾患対応を行っています。これらの診断結果と治療方針などについて、各科とのカンファレンスを行い、診断を検証しています。

PET-CTお申し込みの各医療機関の先生方へ

1. まず、以下の書類を弘前大学医学部附属病院ホームページ(<https://hirosaki-u-radio.com/pet-ct>)よりダウンロードしてください。

①PET-CT診療情報提供書 ②PET-CT検査について(患者用) ③PET-CTご依頼の先生方へ(主治医用)

- ①の「PET-CT診療情報提供書」は、印刷の上、必要事項を記載されるか、Word形式の場合はご入力の上、印刷ください。
- ②の「PET-CT検査について(患者用)」は、印刷の上、あとで患者様に説明書・予約票としてお渡しください。
- ③の「PET-CTご依頼の先生方へ(主治医用)」は、検査の都度印刷する必要はありませんが、よくお読みの上、ご理解いただければ幸いです。

2. ①の「PET-CT診療情報提供書」に必要事項をご記入ください。

PET-CT検査には、保険適用に様々な制限があります。つきましては当院ホームページをよくご確認の上、ご依頼いただきますようお願い申し上げます。なお、保険診療に該当しない場合は自由診療扱いとなり、**10万円前後**の自己負担額となります。なお、これにPET-CT検査か、PET検査単独か、という要件も加わりますが、それに関しては当方にご一任ください。また、**同一月内にガリウムシンチグラフィが行われている場合は、保険適用とはなりません**ので、ご注意ください。

3. 患者様にご説明ください。

②の「PET-CT検査について(患者用)」、③の「PET-CTご依頼の先生方へ(主治医用)」をご参照しつつ、患者ご本人やご家族にご説明ください。②の「PET-CT検査について(患者用)」は、ご説明が終わった後、患者様にお渡しください。

【説明項目】

- a) 予約日時に忘れずに来院すること、もし都合が悪くなって来院できなくなった際はすぐに病院に連絡すること、もし連絡なしに来院されなかった場合には無駄になった薬剤の費用を負担していただく場合もあること、をご説明願います。
- b) 検査前は、最低でも4時間以上、心疾患の場合は18時間絶食が必要です。その点を充分にご説明ください。※
※糖尿病で空腹時血糖値が200mg/dl以上の場合、検査できません。その場合、検査時に200mg/dl以下になるように、管理をお願い申し上げます。また糖分を含む点滴を行っている場合、検査前6時間以上はそれをやめるか、糖分を含まないものに变更してください。
- c) 水負荷のため、検査時に飲用水500ml(ペットボトルのミネラルウォーターなど)を持参していただけますよう、お話しください。
- d) 検査前の運動は控えていただきますよう、ご説明ください。
- e) 検査当日の流れは、以下の通りです。
 - ① 検査予約時間の30分前PET室着。受付後、放射線治療科・放射線診断科外来へ、次に核医学検査室へ。(放射線治療科・放射線診断科が初めての場合、新患の受付の後、放射線治療科・放射線診断科外来へ。)
 - ② 検査前に、問診や、血糖値確認のための採血を行う場合あり。
 - ③ 検査着に更衣の後、薬剤を静注。また、飲水負荷あり。
 - ④ 静注後約1時間は安静必要。(安静時間中の食事や、運動や読書、テレビや音楽などの鑑賞は不可。)
 - ⑤ 検査前に排尿。
 - ⑥ 撮像(30分前後)。(時間をおいて再度写真を撮ることもあり。)
 - ⑦ 会計後、帰宅。検査後は、食事や運動の制限はなし。
- f) 料金(検査の総額で約10万円、保険適用3割で3万円前後)についてもご説明ください。
- g) 予約時間より遅れて来院された場合、絶食を忘れた場合、血糖コントロールが不良で検査時の血糖値が高すぎる場合、検査中止となる場合があります。
- h) 交通事情による薬剤輸送の障害などによる検査時間の遅れ、延期、中止もあり得ます。
- i) 他の方の無用な被曝防止のため、当日は外来の診察や、他の検査はできません。
- j) 検査の終了の当日は、妊婦や乳幼児との接触は、できるだけ避ける必要があります。また授乳中の方は、検査終了の当日は授乳できません。検査の翌日は普段通りでもさしつかえありません。

4. 以下の事項についてご確認ください。

- a) ストレッチャー移動の方、検査時の鎮静や介助が必要な方は、原則として検査できません。ご了承ください。
- b) CT、MRIなどの画像検査のフィルム、データ(CD-Rなど)も持参させていただきますよう、お願い申し上げます。

5. 同意書のご署名をお願いします。

患者さんに検査についてご説明し、承諾されましたら、①の「PET-CT診療情報提供書」の最後にあります【検査同意署名欄】に、先生のご署名と、ご本人のご署名、もしご本人が署名出来ないようでしたら代諾者のご署名と続柄、及び同意取得の日付を記載してください。

6. 検査のお申し込み、予約は、以下の通りです。

電話にて予約をお受けしております。

ご連絡先 弘前大学医学部附属病院 放射線治療科・放射線診断科外来
TEL: 0172-39-5280 受付時間 午前9:30~午後4:00

- a) 予定の変更、キャンセルがありましたら、速やかに放射線科外来までご連絡ください。
- b) 当院ではサイクロトロンは保有しておらず、薬剤は全てメーカーからのデリバリーによるもので、院内製造は行っていないため、至急の検査には対応できません。
- c) また、同じ理由で、必ずしもご希望の日時に検査できるとは限りません。その際はなにとぞご了承ください。

7. 「診療情報提供書」のコピーをお取りください。

「診療情報提供書」は、検査日時に患者様に持参させてください。なお、貴施設の控えを一部お取りの上、保存ください。

※何か疑問な点がございましたら放射線治療科・放射線診断科外来(TEL:0172-39-5280)へご連絡ください。

■ 麻酔科／集中治療科



診療科長

櫛方 哲也

診療科長

櫛方 哲也

総医長

櫛方 哲也

病棟医長

工藤 隆司

外来医長

木村 太

主な連絡先

外来受付	入院病棟
外来診療棟4階 TEL:0172-39-5286	第二病棟4階 TEL:0172-39-5088

外来担当医及び専門分野

氏名	職名等	専門分野
櫛方 哲也	准教授 診療教授	麻酔、集中治療
橋場 英二	准教授 診療教授	麻酔、集中治療
木村 太	准教授	麻酔、集中治療 ペインクリニック、緩和医療
工藤 隆司	講師	麻酔、ペインクリニック 緩和医療

※ペインクリニック、緩和ケア外来は初診時紹介状が必要です。

診療科の概要

麻酔科は、手術部において全身麻酔・局所麻酔管理を行う臨床麻酔分野、集中治療室において重症患者さんの呼吸系・循環系を管理する集中治療分野、外来や病棟で痛みの治療や緩和ケアを担当するペインクリニック分野、の3大分野を担当しています。

臨床麻酔分野においては、年々手術内容が多様化・複雑化し、高齢患者も増えており、麻酔管理症例数と麻酔時間は増加の一途を辿っていますが、手術を行う外科系各科の皆様や手術部看護スタッフ・臨床工学技士の方々から協力を得て、万全のチームワークを図りながら安全かつ効率的に手術が行われるよう鋭意努力しています。最近では救急救命士に気管挿管の実習を行ってもらった修練の場として、患者さんに多大なご協力を賜り、救命力向上のための気管挿管技術を伝授しております。

集中治療分野においては、現在16床が稼働中です。年々増加する重症患者の入室希望により多くお応えすることが可能となっております。大手術や重度の合併疾患を有する手術患者の術後管理、致死率の高い内科的疾患の急性期治療など、先進医療を支える中核部門として機能しています。また、各種血液浄化などの高度な医療機器を完備し治療技術を提供しています。

ペインクリニック分野においては、様々な疼痛疾患の診断や治療、術後の疼痛マネジメント、がん疼痛治療や緩和医療・緩和ケアに力を注いでいます。平成19年4月からは院内に緩和ケアチームが正式に発足し、ペインクリニック担当の麻酔科医師4名が毎日の直接診療を通じてチーム内で中核的な役割を担っております。緩和ケアチームには麻酔科医師のほか看護師、臨床心理士、精神科医師、歯科医師、薬剤師、管理栄養士がメンバーとして加わり、患者さんやご家族への様々な苦痛や悩みに対して支援を行うチーム医療を実践しています。

特徴・特色ある診療

●麻酔

最近では、多様な慢性疾患を合併する手術患者が増加し、長時間に及ぶ手術も多く、安全な麻酔を施行するための麻酔前評価が非常に重要となっています。手術担当医から事前に十分な情報を提供していただき、患者さんご本人及びご家族に、早い段階から麻酔に関する説明や相談の機会を提供しています。また、普段はお元気な患者さんも含めて、当科で作成したオリジナル麻酔説明ビデオをご覧いただき、麻酔に対する不安を解消するよう努めています。もちろん、手術当日の麻酔は麻酔を専門とする麻酔科医師が全症例を担当していますので、ご安心下さい。

●集中治療

集中治療部門でも、入室予定の患者さんに対しては、麻酔科医師や看護スタッフから事前の説明を行い、入室中は麻酔科医師が看護スタッフとともに24時間体制で治療や看護を行っています。毎朝各科主治医の先生方とカンファレンスを行って、患者さんの容態に関する情報を共有し治療方針を協議しています。

●ペインクリニック

ペインクリニック部門においては、身体的な苦痛に対する治療はもちろんですが、心理的な苦痛やスピリチュアルペインといった全人的な苦痛に対しても十分な配慮を心がけております。緩和ケアチームは毎日診療を行っていますが、毎週水曜日にはメンバー全員が集まってカンファレンスを行い、患者ご本人やご家族の苦痛や不安への解決策を協議して、安心して治療・療養できるような環境を整えています。

■ 脳神経外科



診療科長

斉藤 敦志

診療科長

斉藤 敦志

総医長

片貝 武

病棟医長

片貝 武

外来医長

浅野研一郎

主な連絡先

外来受付	入院病棟
外来診療棟4階 TEL:0172-39-5288	第二病棟6階 TEL:0172-39-5269

外来担当医及び専門分野

氏名	職名等	専門分野
斉藤 敦志	教授	脳血管障害、良性脳腫瘍 神経内視鏡手術
浅野研一郎	准教授	脳腫瘍、脳血管障害 悪性脳腫瘍の集学的治療
森田 隆弘	講師	脳神経血管内治療・脳血管障害
梶 友紘	助教	脳神経血管内治療・脳血管障害
片貝 武	助教	脳神経血管内治療 脳血管障害、脳腫瘍
藤原 望	医師	脳神経外科
木下 翔平	医師	脳神経外科
佐々木貴夫	医師	脳神経外科
柳谷 啓太	医師	脳神経外科
上野 浩太	医師	脳神経外科
渡邊 亮太	医師	脳神経外科
野村 優	医師	脳神経外科
水上 藍	医師	脳神経外科
棟方 竜一	医師	脳神経外科
秋田谷さくら	医師	脳神経外科

診療科の概要

脳神経外科治療の対象となる疾患は、脳血管障害(脳卒中)、脳腫瘍、頭部外傷、先天性奇形、機能的脳神経外科疾患などに大別されますが、当科ではこれら全ての疾患に対する治療を行っています。脳血管障害、頭部外傷などの急性疾患に対しては24時間体制で検査・緊急手術などの対応を行っています。また脳腫瘍、機能的脳神経外科疾患などに対しては、術中モニタリング、神経内視鏡、定位的手術、ナビゲーションシステムなどの併用により先進治療を行っています。

外来診療は月曜日～金曜日の午前に行っています。新患は月曜日と金曜日の午前10時半までが受付となっています。また、再来の場合は予約外来が原則となっています。ただし、緊急疾患に対しては随時対応しています。

特徴・特色ある診療

●脳血管障害

1) くも膜下出血(破裂脳動脈瘤)

開頭手術やカテーテルを使用した脳血管内治療による急性期根治手術を行い、さらにくも膜下出血特有の合併症に対して治療法を開発し良好な成果を得ています。

2) 未破裂脳動脈瘤

破裂脳動脈瘤手術経験の蓄積に基づき、合併症を最小限に抑えた手術(脳動脈瘤クリッピング術・脳血管内治療)を行っています。

3) 脳内出血

独自に開発した神経内視鏡併用定位的装置による低侵襲的血腫除去術を行い良好な結果を得ています。

4) その他の脳血管疾患

脳動静脈奇形などの血管奇形に対しては直達手術、脳血管内治療、ガンマナイフの複合的治療を行っています。頸動脈狭窄やもやもや病に対しても幅広く対応しています。

●脳腫瘍

1) 頭蓋底腫瘍・深部脳腫瘍

各種の術中モニタリングを開発・応用し、これらの併用により安全、確実な摘出術を遂行しています。

2) 悪性脳腫瘍

手術、化学療法、放射線治療などの集学的な治療を行い、QOLの向上を得ています。また、手術はナビゲーションを基本的に変更し、局所化学療法、光線力学療法、交流電場療法などを行います。

3) 間脳・下垂体腫瘍

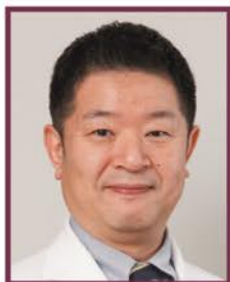
神経内視鏡の併用による低侵襲的摘出術を行っています。

●機能的脳神経外科疾患

1) 顔面痙攣・三叉神経痛

術中モニタリングの併用下で安全かつ確実性の高い微小血管減圧術を施行しています。

■ 形成外科



診療科長

漆 館 聡 志

診療科長

漆 館 聡 志

総医長

三 上 誠

病棟医長

飯 田 圭 一 郎

外来医長

和 田 尚 子

主な連絡先

外来受付	入院病棟
外来診療棟2階北側 TEL:0172-39-5292	第二病棟6階 TEL:0172-39-5269

外来担当医及び専門分野

氏 名	職名等	専門分野
漆 館 聡 志	教 授	顔面組織再建、マイクロサージャリー 褥瘡・難治性潰瘍、乳房再建
三 上 誠	准教授	形成外科一般
和 田 尚 子	講 師	形成外科一般
飯 田 圭 一 郎	助 教	形成外科一般
樋 口 彩 子	助 手	形成外科一般
對 馬 佑 樹	病院助手	形成外科一般
油 川 菜 央	病院助手	形成外科一般

診療科の概要

形成外科とは、以下の病気により失われた体表面の機能や形態を、元に近づけたり新たに作ったりする科です。

1. 外傷、外傷後変形(顔面骨骨折、熱傷を含む)

体の浅い部分の傷は、形成外科で治療します。擦り傷、切り傷や熱傷(やけど)、重症の全身熱傷、交通事故やスポーツなどでの顔の骨折も治療します。事故や手術の傷跡が目立つ場合や、顔の骨折により変形が残った場合の治療も行います。褥瘡(床ずれ)、糖尿病性潰瘍、下肢の血管病変による潰瘍など、治りにくい傷の治療、手術も行っています。

2. 腫瘍、腫瘍手術後変形

体の表面のほくろ、いぼや皮膚がんなど、良性、悪性の腫瘍をできるだけ機能や形態を損なわないよ

うに治療します。また、乳がんの手術後、乳房を作るなど、他の科の手術で失われた体の一部を作ったりもします。

3. 体表先天異常

生まれつきの体表面の異常は形成外科で治療します。口唇裂、口蓋裂、耳の形の異常、手足の形や機能の異常などがあります。赤あざ、青あざ、黒あざなど皮膚の異常の治療も行っています。

特徴・特色ある診療

●熱傷

熱傷の治療では、特に傷の治療、手術で、独自の方法を開発・治療を行っています。また広範囲熱傷では人工真皮移植、培養表皮移植などの再生医療も利用して治療を行っています。

●ケロイド・肥厚性瘢痕

ケロイド、肥厚性瘢痕(傷跡)の治療において、独自に開発した方法を用いて、治療を行っており、この方法の効果は海外の研究者によっても確かめられています。

●顔面骨骨折

交通事故、スポーツ外傷などで生じた鼻骨や頬骨などの顔面骨骨折に対して、常時機能面と整容面を考慮した治療を行っています。

●顔面の部分再建

耳、鼻、口唇などの外傷や腫瘍の手術で、新再建法を開発し、機能面、整容面をともに満足が得られる治療を行っています。

●口唇・口蓋裂

口唇裂、口蓋裂では、言語聴覚士、矯正歯科医などと連携して、成長に合わせた集学的治療を行っています。

●乳房再建

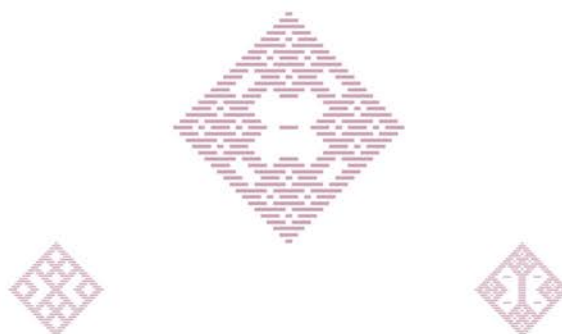
腹部皮弁を用いた自家組織による乳房再建や、人工乳房(インプラント)を用いた乳房再建を行っています。乳がんで乳房を失った患者の社会復帰を助けます。

●褥瘡・難治性潰瘍

創傷治癒の知識を用いた治療により、褥瘡や糖尿病性潰瘍などの治りにくい傷を速やかに治癒へと導きます。症例によっては手術や陰圧閉鎖療法なども行います。

●眼瞼下垂症

まぶたが下がって見えにくくなっている状態を眼瞼下垂症といいます。まぶたを上げる筋肉に連続する腱膜を固定したり、筋膜や糸でつり上げる手術などで改善が得られます。



■ 小児外科



診療科長

平 林 健

診療科長

平林 健

総医長

小林 完

病棟医長

小林 完

外来医長

小林 完

診療科の概要

小児外科は15歳以下の一般外科的疾患を対象とします。具体的には、外鼠径ヘルニア、臍疾患、急性虫垂炎、肛門疾患および外傷などの日常疾患から、顔面・頸部・肺疾患、横隔膜疾患、腹壁異常、先天性消化管閉鎖症、各種小児期消化器外科疾患、胆道閉鎖症、固形腫瘍、小児腎尿路系疾患など、多岐にわたっています。また、慢性的な腹痛や嘔吐、腹部不定愁訴などを反復し確定診断が困難な症例や、慢性便秘に対する精査も行っています。

新患は月、火、水、木曜日の午前8時30分～11時まで、再来は月、火、水、木曜日の午前中にそれぞれ受け付けております。それ以外の曜日でも受診を希望する場合は可能な限り対応します。

主な連絡先

外来受付	入院病棟
外来診療棟3階南側 TEL:0172-39-5256	入院棟東3階 TEL:0172-39-5072 周産母子センター TEL:0172-39-5326

外来担当医及び専門分野

氏 名	職名等	専門分野
平林 健	准教授 診療教授	小児外科
小林 完	講 師	小児外科
齋藤 傑	助 教	小児外科

特徴・特色ある診療

小児外科は新生児、乳児期、幼児期、学童期、思春期の各年齢層に特有な疾患が発生するため、常に患児の成長、生活の質(QOL)を考慮した診療を心がけております。

また、消化器外科、呼吸器外科、形成外科、小児科、周産母子センターをはじめ、関係各科との連携のもとに診療を行っています。

●内視鏡下手術

小児の消化器系疾患(肥厚性幽門狭窄症、急性虫垂炎、胃食道逆流症、ヒルシュスプルング病、鼠径ヘルニア、その他)や肺・縦隔疾患(肺・縦隔腫瘍、その他)に対しては、できるだけ大きな傷の残らない腹腔鏡や胸腔鏡を利用した手術を行っています。

■ 歯科口腔外科



診療科長

小林 恒

診療科長

小林 恒

総医長

久保田耕世

病棟医長

成田 紀彦

外来医長

田中 祐介

診療科の概要

歯科口腔外科では、歯科的疾患はもとより口腔顎顔面領域に生じるすべての疾患を対象とし、口腔外科診療のプロフェッショナルとして専門的治療を行っています。

具体的には、口腔に生じる悪性腫瘍(口腔がん)・良性腫瘍・う蝕や歯周疾患に伴う顎骨周囲の炎症性疾患、上下顎骨骨折、頬骨骨折などの外傷性疾患、顎骨の嚢胞性疾患、顎関節症、骨格性の下顎前突症などの顎変形症が比較的頻度の高い疾患です。

治療には、治療後の機能障害を最小限にしつつ、最良の結果が得られるように、常に最新、最先端の治療を心がけております。

外来診療では口腔腫瘍、顎嚢胞、顎関節症、顎変形症、インプラント治療の専門外来を有し、顎顔面の外傷に対しても救急処置を含め、適切な診療体制が整備されています。新患・再来とも毎日診療していますが、初診時は紹介状が必要です。他の病院または歯科医院を最初に受診して下さい。

再来患者さんの診療は完全予約制を取り、待ち時間の短縮に努めています。毎週、月、水、木の午後は外来小手術として局所麻酔下での難抜歯術(親知らずの抜歯)、良性腫瘍切除術、嚢胞摘出術、インプラント(人工歯根)植立術を行い、必要に応じて静脈内鎮静を併用してより快適に手術が受けられるよう配慮しています。

入院診療では、毎週火・金が全身麻酔による手術日となっています。

主な連絡先

外来受付	入院病棟
外来診療棟4階南側 TEL:0172-39-5290	第二病棟4階 TEL:0172-39-5278 第二病棟5階 TEL:0172-39-5272

外来担当医及び専門分野

氏 名	職名等	専門分野
小林 恒	教 授	口腔悪性腫瘍、 口腔インプラント
久保田耕世	講 師 診療准教授	口腔悪性腫瘍、顎変形症 顎関節症
伊藤 良平	講 師	口腔外科一般
田中 祐介	助 教	口腔外科一般

特徴・特色ある診療

●口腔がん

口腔がんの治療は治療後の機能障害を最小限としつつ、最良の治療成績が得られるように治療を行っています。早期の口腔がんでは手術で切除して、必要に応じて再建手術を駆使し機能回復までを一貫として行っています。進行がんでは切除した場合にはどうしても術後の機能障害が大きくなります。そこで、放射線治療科の協力を得て、抗癌剤を腫瘍の栄養動脈に直接投与する超選択的動注化学療法と放射線治療を併用することで一切の手術を回避することが可能となりました。成績も手術療法と同等かそれ以上の結果が得られます。この超選択的動注化学放射線治療により「切らずに治す」ことが可能となり、ステージ3、4の進行がんでも5年生存率は70%以上と良好な結果が得られています。

●顎変形症

顎変形症に対する外科的矯正術は一般の矯正治療のみでは歯並びや下顎の前突感が改善出来ないような骨格性の不正咬合について矯正治療と手術を組み合わせで行う治療です。見た目と機能の両方を改善することを目的としています。手術方法に工夫して術後の発生頻度の多い下唇の知覚鈍麻が生じないように努めています。顎変形症に対する治療は県内外の歯科矯正専門医と病診連携を密にして治療がスムーズに行われています。

●歯科インプラント

歯の欠損に対する治療法としてインプラント治療を積極的に行っています。インプラント治療は確立された治療ではありますが、外科的侵襲が加えられるため安全な治療が求められます。当科では、ほぼ全ての症例においてインプラント治療前にCTを撮影し、コンピュータでシミュレーションしサージカルガイドを作製してからインプラント埋入術を行います。歯科口腔外科では多くの口腔外科的疾患の治療経験があり全身疾患を持った患者さんでも安全な治療を提供できる体制が整っています。そのため、一般歯科医院では対応が困難なインプラント治療を多く手がけております。また、口腔外科的疾患により従来のブリッジや有床義歯では咀嚼機能の回復が困難な広範囲の顎骨欠損等の患者に対して応用するインプラント治療は保険診療として対応出来ます。詳しくは主治医にご相談下さい。

●口腔ケア

現在、口腔以外のがん治療においても口腔をきれいに保つことで、抗癌剤の治療やがんの手術後の合併症を予防できることがわかってきました。そこで当科では当院に入院されたすべての癌患者さんを対象に希望に応じて口腔ケアを提供しております。

■ 病理診断科



診療科長
黒瀬 顕

主な連絡先

受付窓口

中央診療棟2階

医師及び専門分野

氏 名	職名等	専門分野
黒瀬 顕	教 授	一般病理、脳腫瘍病理、細胞診
明本 由衣	助 教	一般病理、炎症性腸疾患病理
木村 相泰	助 教	一般病理、口腔病理、頭頸部病理
鈴木 俊顕	助 教	一般病理、生化学

診療科の概要

患者さんから採取されたさまざまな疾患の組織や細胞の病理組織標本や細胞診標本を作製して顕微鏡で観察し、病理診断を行うのが病理診断科の役割です。

患者さんによりよい医療が提供できるよう、臨床医、病理医、細胞検査士、臨床検査技師が顕微鏡を見ながら診断や治療についてディスカッションしたり、若手臨床医が組織をみることで治療の検証を行って医療の質を高める場でもあります。

1. 生検診断

病変の一部を採取し病理診断します。良性悪性の判断だけでなく、治療方針の決定や治療効果の評価も行います。また肝炎や腎炎の診断、移植医療にも重要です。正確な診断のためには良好な病理組織標本の作製が不可欠であり、高度な技術を有する臨床検査技師が担当しています。

2. 手術検体の診断

手術で摘出された臓器や組織は外科医の手を離れ、病理医が肉眼的に全体を観察して必要部位から標本を作製します。そして、顕微鏡的に詳細に観察して、病変の診断、拡がり、細胞の特徴等を検討して外科医に報告します。術後の治療に重要ですし、外科医の治療の検証にもなり、医療の質を高めるためにも役立ちます。

3. 術中迅速診断

手術の途中で組織の一部から大至急標本を作って病理診断し、外科医に報告して手術方針の決定に役立てるものです。肺や卵巣など生検が難しい病変の良悪性の診断のほか、癌の際には手術で摘出された組織の断片部の癌細胞の有無やリンパ節転移の有無などの判定も手術に影響する重要な仕事です。このように手術範囲の決定に大変重要であり、特に最近の主流である縮小手術の実施に不可欠です。

4. 細胞診

痰や尿中の細胞、そして綿棒や注射針等で採取した細胞を診断します。患者さんの苦痛が少ない採取方法です。癌の早期発見や様々な病変の診断に役立ちます。癌細胞があるかどうかのスクリーニングには細胞検査士が活躍しています。

5. 病理解剖

ご家族のお許しを得て亡くなられた患者さんの解剖をさせて頂き、臨床医と病理医が一緒に全経過を検討し医療や医学の進展に役立てます。近年画像診断の進歩等により病理解剖数が減少していますが、病理解剖は医療の質の維持向上のために大変重要です。

特徴・特色ある診療

1. 病理診断学講座が病理部の中心を担い、他の基礎病理学講座と協力して質の高い病理診断を目指しています。
2. 病理部は臨床医とともに病理組織を検討して、正しい診断や適切な治療を探索する場でもあります。このことは臨床医のトレーニングにも役立ちます。そのためのディスカッション顕微鏡や病理部専用のカンファレンスルームが設置されています。
3. 患者さんの治療に役立つ病理診断を常に目指して勉強会や臨床とのカンファレンスを積極的に行っています。

4. 全国に先駆けて液状化細胞診を導入し、より精度の高い診断が出来るようになりました。また患者さんの負担軽減のためベッドサイド細胞診も実施しています。
5. 手術室と病理部とを結び、顕微鏡画像を動画で手術室に映し出し、執刀医と会話しながら術中迅速診断を伝えられるシステムが導入されています。臨床医が適切な手術方針を決定することに役立っています。
6. 病理外来を設置しています。ご希望の方には、病理医が直接、病変部の組織像を顕微鏡モニターを見ながら、わかりやすくご説明します。

■ 救急科



診療科長
花田 裕之

診療科長

花田 裕之

副センター長

伊藤 勝博

病棟医長

副センター長 横田 貴志
総医長

外来医長

長谷川聖子

診療科の概要

当科は青森県で唯一の高度救命救急センターに指定されており、生命にかかわる病気や外傷、熱傷、中毒など幅広い重症例の診療を24時間体制で行っています。対象は、救急車やドクターヘリにより搬送されてきた方や他の病院で治療が難しい患者さんです。大学病院が有する高度な診療能力を発揮するために院内の各科と連携をとりながら、最新の治療を提供できる体制をとっています。また、地域の消防本部と緊密な連携を保ちながら、質の高い医療サービスを提供し、青森県の救急医療の最後の砦として県民の方々が安心して暮らせるよう努力しています。

主な連絡先

外来受付	入院病棟
高度救命救急センター受付 TEL:0172-39-5429	高度救命救急センター病棟 TEL:0172-39-5315 第二病棟7階 第二病棟4階

外来担当医及び専門分野

氏 名	職名等	専門分野
花田 裕之	教 授	救急医学、災害医学、循環器学
伊藤 勝博	教 授 (災害・被ばく医療教育センター)	救急医学、災害医学、脳神経外科
横田 貴志	准教授	救急医学、循環器内科学
奈良岡征都	講 師	救急医学、脳神経外科学、災害医学
長谷川聖子	助 教	救急医学、脳神経外科
中山 弘文	助 教	救急医学、内分泌代謝内科学
杉山 佳奈	病院助手	救急医学、集中治療

特徴・特色ある診療

●高度救命救急センター

外来診療棟の上には融雪・照明装置付きのヘリポートがあり、青森県全域や秋田県からの重症例を受け入れています。センター内には3例同時に診療できる初療室があり、素早く診断を行うためのエックス線装置、CT、超音波診断装置、血液検査室が備わっています。集中治療ベッドは10床あり、最新の医療機器で高度な集中治療を提供しています。陰圧対応ベッドが5床あり、感染症の重症患者にも対応しています。

●緊急被ばく医療

国から原子力災害医療・総合支援センターならびに高度被ばく医療支援センターの指定を受けており、常に被ばく医療に対応できるような診療体制ならびに設備を備えています。

●災害医療

基幹災害拠点病院に指定されており、災害発生時に被災地に派遣する災害派遣医療チーム(DMAT)を組織し、常日頃から災害時の派遣に備えています。災害被ばく医療教育センターと共に、災害教育も力を入れています。

中央診療施設等のご紹介



■ 高度救命救急センター



平成22年7月、弘前大学に青森県で唯一の高度救命救急センターが開設されました。この高度救命救急センターとは、一般的な救命救急センターの任務である重篤な傷病者を24時間体制で受け入れ

る体制に加え、重症熱傷、中毒、切断指の再接着などあらゆる重症の救急傷病者に対応できる施設です。

弘前大学における高度救命救急センターの役割は、地域における救急医療の最後の砦として重症傷病者を受け入れること、次の世代を担う医学生や若い医師に対し救急医療に関する教育を行うことです。内因・外因を問わない幅広い救急傷病者を受け入れることで、地域の救急医療に貢献するとともに、次世代を担う医師が数多くの救急症例を経験できるように努力しています。

高度救命救急センターでは救急隊による現場からの搬送だけではなく、医師が集中治療管理を要すると判断した症例についても積極的に受け入れを行います。その対象は、多発外傷に加え、重症肺炎、急性膵炎、敗血症、多臓器不全や消化管穿孔や虚血性腸管壊死、壊死性筋膜炎など緊急手術を必要とする症例です。

県民の方々が安心して暮らせる医療体制の充実と、救急診療ができる若い医師を育てるために、センターの職員が一つとなって努力しています。



スタッフ	センター長	花田 裕之(日本救急医学会 指導医)
	医師	17名(上記1名を含む)
	看護師長	成田 亜紀子
	看護副師長	須藤 典子
		上原子 まどか
	救急看護認定看護師	成田 亜紀子
施設		佐藤 絢子
	看護師	39名(上記4名を含む)
救急外来3床、観察ベッド2床、専用CT、レントゲン撮影装置、救命救急病棟10床(2:1看護の集中治療室に準じる病室)、緊急被ばく医療用処置室・放射線分析装置など		



■ 薬剤部

薬剤部長：新岡 文典

部門の概要

組 織	セントラル部門：調剤、薬品管理、麻薬管理、製剤、TPN・ 抗がん剤調製、医薬品情報収集・提供、 血中濃度モニタリング、業務 サテライト部門：医薬品安全管理・服薬支援、医療安全 推進（GRM）、外来化学療法支援、臨床 試験管理
スタッフ	薬剤師32名 助手11名 認定・専門薬剤師数 がん指導薬剤師（日本医療薬学会） 1名 がん専門薬剤師（日本医療薬学会） 4名 薬物療法専門薬剤師（日本医療薬学会） 1名 感染制御専門薬剤師（日本病院薬剤師会） 3名 感染制御認定薬剤師（日本病院薬剤師会） 2名 精神科薬物療法認定薬剤師（日本病院薬剤師会） 1名 日本糖尿病療養指導士（日本糖尿病療養指導士認定機構） 1名 腎臓病薬物療法認定薬剤師（日本腎臓病薬物療法学会） 3名 抗菌化学療法認定薬剤師（日本化学療法学会） 1名 スポーツファーマシスト（日本アンチ・ドーピング機構） 1名 周術期管理チーム薬剤師（日本麻酔科学会） 1名 医療情報技師（日本医療情報学会） 1名 小児薬物療法認定薬剤師（日本薬剤師研修センター） 2名 医療薬学専門薬剤師（日本医療薬学会） 2名 医療薬学指導薬剤師（日本医療薬学会） 1名 日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師 3名 日病薬病院薬学認定薬剤師 22名 日本病院薬剤師会認定指導薬剤師 1名 日本臨床薬理学会指導薬剤師 1名

医療安全文化の醸成を図るため、薬剤部では医薬品の適正管理や適正使用の支援に力を注いでいます。医薬品が患者さんに投与されるまで、そして投与後における安全性を確保するため、多職種と連携しながら様々な活動を実施しています。

部門の特徴・特色

● 医薬品の安全管理

医薬品が関連した医療事故を未然に防ぐためには、どのような予防策が有効か常に考えながら、医薬品の採用、保管、調剤・調製を行っています。

医薬品の使用状況の把握や安全性の向上に役立つ情報の収集を頻繁に行い、適正使用の推進に努めています。

● 薬物療法の支援

好ましくない薬物の併用や重複投与が起きないように、服薬指導や持参薬管理を通じて、ポリファーマシー対策を実践しています。

ハイリスクな薬物の血中濃度モニタリングを実施し、個々の患者さんに対して最適な投与計画を立案しています。

● チーム医療への参画

がん薬物療法の安全性確保や感染制御活動に積極的に取り組み、抗がん剤や抗菌薬の適正使用の推進を図っています。

他医療機関と連携しながら、地域全体で薬物療法の適正化に努めています。

■ 看護部

看護部長：井瀧 千恵子

部門の概要

看護体制	7対1特定機能病院入院基本料（一般病棟） 13対1特定機能病院入院基本料（精神病棟）
看護職員	看護職 588名（常勤）、17名（パート） 看護助手等 49名
認定看護師	皮膚・排泄ケア 2名 救急看護 2名 集中ケア 2名 緩和ケア 2名 がん化学療法看護 3名 がん放射線療法看護 1名 感染管理 2名 糖尿病看護 1名 不妊看護 1名 脳卒中リハビリテーション看護 1名 認知症看護 1名 手術看護 2名 慢性心不全看護 1名
専門看護師	がん看護 1名 小児看護 1名 急性・重症患者看護 1名 放射線看護 2名
看護部理念と基本方針	看護部の理念は、弘前大学医学部附属病院の使命と目標に基づき、包括的かつ継続的な看護を提供することである。また、変革する社会情勢を敏感に受け止め、地域における看護活動の拠点として、人々の健康と福祉に貢献することである。 1. 患者と相互理解を図り、優しさと思いやりのある看護を提供する 2. 患者の安全を守り、快適な生活環境を提供する 3. 自己啓発し、研究・研修等を行い、看護の専門性を高める 4. 学生・研修生等に関する教育環境を整え、後進の育成に努める

部門の特徴・特色

看護部では、患者さんやご家族が安心して療養に専念できるように、安全な療養環境を整えお迎えしています。また、患者さん・ご家族のお気持ちやニーズをくみ取り、質の高い行き届いた看護を心がけております。

医療チームの一員として、医療安全や感染対策に取り組むと共に、日常生活の支援者として患者さんのQOLの維持・向上を目指し活動しています。

外来では、助産外来や育児外来、リンパ浮腫外来、ストーマ外来、フットケア外来の専門外来を開設し、熟練した技術を持つ助産師や認定看護師が療養生活を支援しています。



■ 手術部

部長:皆川 正仁

部門の概要

手術件数	6,350例(令和5年度) 全身麻酔 4,032例 局所麻酔他 2,318例
手術室	12室(12手術台) うちOR-11:陰圧化可変システム設置(感染症患者対応) OR-10:ハイブリッド手術室
スタッフ	部長(併任) 1名 副部長(専任) 1名 看護師 49名 看護助手 2名 臨床工学技士 3名 人工心肺担当3名(臨床工学部) 放射線技師 常駐 放射線部1名+派遣2名(放射線部) 技能補佐員 1名 薬剤師 派遣1名(薬剤部) 事務職員 4名

部門の特徴・特色

当部門は附属病院手術部として先進の医療による手術や研究環境の維持、医師や看護師の教育・研修だけでなく、北東北医療圏における3次救急病院として数多くの緊急手術に対応しております。令和5年度の総手術件数は6,350件(臨時手術を含む)でありCOVID-19流行による影響で減少した令和4年度から大幅に回復しました。

近年、ロボット手術システムやハイブリッド手術システムを用いる低侵襲手術の割合が増加し、ハイリスク患者においても術後の早期回復、早期離床が可能になりました。

平成23年度から2台体制で開始したロボット手術システム(=遠隔操作型内視鏡化システム)は、令和3年に最新機器に更新されました。またロボット手術システムを用いる手術適応も拡大し、従来の泌尿器科(前立腺手術、膀胱手術ほか)、婦人科(悪性腫瘍手術)および消化器外科手術(直腸、脾手術ほか)に加え、令和4年度から呼吸器外科(=肺悪性手術)、令和5年度4月から脾臓十二指腸手術での運用が開始し、今後も適応手術や手術件数の増加が予想されます。さらに令和6年度から国産ロボット手術システムであるhinotoriの運用が予定されています。

ハイブリッド手術システム(令和元年6月から開始)は、定時手術を中心に循環器内科(径カテーテル大動脈弁留置術、ペースメーカー埋め込み術)、脳神経外科(脳動脈瘤コイル塞栓術、経緯動脈ステント留置術)および心臓血管外科(胸腹部血管ステント留置術など)で各診療科が曜日を分けて効率的に利用しています。令和5年度におけるロボット手術システムおよびハイブリッド手術システムを利用した手術は、それぞれ303件、331件であり、両システムによる手術件数は、総手術全体の1割以上に増加しました。

令和6年度から患者安全確認の強化や手術部運営効率化のために手術を受けられる患者のウォークイン入室を開始しました。また安全な医療の確保、円滑な手術実施を目指し手術手順やマニュアルの改訂、さらに患者の不安軽減のための術前訪問など手術部の看護師が一生懸命取り組んでいますので安心して手術に臨むことができます。

■ 検査部

部長:富田 泰史

部門の概要

スタッフ	部長(臨床検査専門医)	
	副部長(臨床検査専門医)	
	講師	1名
	助教	2名(1名は臨床検査専門医)
	臨床検査技師	32名
	看護師	8名
	事務職員	2名
検査件数	1日平均2,000件	

検査部は、検査全般の管理・運営に携わる医師と、採血・末梢血・血液凝固能、生化学、免疫・血清、尿などの体液、微生物、遺伝子、そして生理機能といった各種検査に精通した臨床検査技師・看護師によって構成され検査を行っています。

内部および外部精度管理事業に積極的に参加し、標準化され(いつ、どこで、だれが検査を行っても同じ結果になる)正確で精密な検査結果を診療科および患者さんへ提供できるよう日々努力しています。また、臨床検査の適正化に関する委員会を定期的に開催し、診療科および患者さんのニーズにあった運営を目指しています。

部門の特徴・特色

地域に密着した特定機能病院という本院の特色ある役割に貢献することを目指しています。

具体的には、

- 1)緊急性の高い検査については、24時間対応可能な体制を整備する。
- 2)院内診療科受診前の採血・採尿と迅速な結果報告や院内感染制御チーム、栄養サポートチームおよび治療薬物モニタリング業務等の支援を行う。
- 3)院内感染制御については、感染症制御システムを活用して、微生物の病原性・伝播性・環境要因を総合的に分析し、アウトブレイクの監視・早期発見から抗菌薬の適正使用に至る感染症診療全般に対する包括的な支援を行う。
- 4)総合臨床検査システムの更新と中央採血室の拡充が行われ、より効率的に診療支援を行える体制が構築されている。
- 5)超音波診断装置画像のオンライン配信が可能となり、生理画像診断分野の機能向上と体制強化に取り組んでいる。
- 6)定期的に検体検査機器更新を行い、検査のさらなる迅速化をめざしている。
- 7)PCR検査機器の充実により、新型コロナウイルスをはじめとした新興感染症に迅速に対応している。
- 8)令和3年に病理部、輸血部とともに臨床検査室の国際規格ISO15189認定を取得し、検査のさらなる質の向上を目指している。

■ 放射線部

部長:青木 昌彦

部門の概要

スタッフ	部長 青木昌彦
	〔日本医学放射線学会放射線科専門医 日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会 放射線治療専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医〕
	副部長 畑山佳臣
	〔日本医学放射線学会放射線科専門医 日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会 放射線治療専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医〕
	診療放射線技師長 成田将崇
	診療放射線技師 43名
	事務員 3名
	(令和6年4月1日現在)
検査件数	1日平均600件

部門の特徴・特色

最新鋭の医療機器により、低侵襲かつ高精度の診断と治療を行います。診断部門では検査後24時間以内に報告書を作成し、院内に配信しています。放射線治療部門では、強度変調放射線治療(IMRT)や体幹部定位放射線治療をはじめとする高精度放射線治療のほか、小線源治療やアイソトープ治療、ハイパーサーミア療法も行っております。

●医療機器安全管理

医療機器の毎日の点検はもとより、定期的に品質管理を行い、医療機器の安全管理に努めています。

●フィルムレスによる院内画像配信

放射線情報システムと病院医療情報システムを介して、院内にリアルタイムでCT、MRI、PET-CT、核医学検査、一般撮影等の画像配信を行っております。



強度変調放射線治療 IMRT専用機
Radixact X9

■ 材料部

部長:津田 英一

部門の概要

スタッフ	部長(併任)	1名
	副部長(併任)	1名
	看護師長	1名
	看護助手	2名
	委託業者	30名(うち手術部担当者5名)
有資格者 (重複あり)	普通第一種圧力容器取扱作業主任者	10名
	特別化学物質等作業主任者	11名
	第2種滅菌技士	7名
	院内滅菌消毒業務受託責任者	1名
	滅菌管理士	1名
洗浄装置	ウォッシャーディスインフェクター	3台
	ジェット式超音波洗浄機	3台
	カートウォッシャー	1台
	真空式超音波洗浄機	1台
	回収コンテナ洗浄機	1台
	浸漬用恒温槽	3台
	卓上型超音波洗浄機	1台
滅菌装置	高圧蒸気滅菌機	4台
	カートリッジ式酸化エチレン オキサイドガス滅菌機	2台
	排ガス処理装置	2台
	過酸化水素ガスプラズマ滅菌機	1台
乾燥装置	高温乾燥機	2台
	低温乾燥機	7台
その他	洗浄・滅菌装置監視システム	一式
	滅菌物品品質管理システム	一式

部門の特徴・特色

- ・病院内で使用する再使用可能医療機器(RMD: reusable medical device)の洗浄・消毒・滅菌業務の中央処理を推進することで臨床現場の省力化を図るほか、正しい知識をもつスタッフによる作業で再生処理の品質を保証し、安全な医療の提供に貢献しています。
- ・材料部内を汚染区域・準清潔区域・清潔区域の3ゾーンに区分けし、回収した使用済み器材を一定方向に進めて再生処理を行なっています。使用済み器材と消毒・滅菌済み器材が交差しないように物理的に仕分けすることで、安全な医療器材提供を実現しています。



■ 輸血部

部長:玉井 佳子

部門の概要

スタッフ	部長	1名
	副部長	1名(兼任)
	臨床検査技師	5名
業務内容	・血液型判定 ・不規則抗体検査、交差適合試験 ・直接・間接抗グロブリン試験 ・貯血式自己血の採血、感染症検査と適正保管 ・輸血に関する知識の啓発、輸血相談ほか ・輸血教育活動 ・末梢血幹細胞採取補助・保管 ・クリオプレシピテート院内調整	

当部は院内の輸血に関する検査を施行するほか、輸血用血液製剤の注文・管理・保管、払出しを行っています。また、貯血式自己血を採血し、感染症検査と保管管理を担当しています。平成18年6月からは検査部と共同で、輸血業務24時間体制が稼動しています。平成27年5月からは、クリオプレシピテートの院内調整を開始し、供給しています。

部門の特徴・特色

地方中核病院の輸血部門として、日本輸血学会認定医制度の指定施設、認定輸血検査技師制度の指定施設ならびに、学会認定・輸血看護師制度の指定研修施設の認証を受けています。輸血認定医1名と認定輸血検査技師4名が専任で勤務し、安全で適正な輸血医療の提供に尽力しています。輸血業務のみでなく、院内・他施設からの輸血相談も随時受け付けています。末梢血幹細胞採取補助ならびに保管も行っています。安全な輸血医療提供のために、大学の医学部医学科学生、保健学科学学生、ならびに初期研修医、看護師などの講義・実習や研修等の教育活動にも力を入れています。

また、平成27年5月からは、大量出血に伴う消費性凝固障害を生じて止血困難になった患者さんに対する、クリオプレシピテートの院内調整・供給を開始し、現場に貢献しています。

■ 集中治療部

部長代行:袴田 健一

部門の概要

院内・院外で発症した重篤な患者さんを24時間体制で看護・治療を行う場所です。患者さんの診療科の医師に、集中治療の専門医を含む専従医師、看護師、臨床工学技士、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフなどの多職種ICUチームも協力し、最善の治療を行います。

スタッフ	部長代行	袴田健一
	副部長	橋場英二
	専従医師	工藤倫之 野口智子 その他麻酔科から4名
	専任薬剤師	津山博匡
	看護師長	一戸 環
	看護師	48名
	専任管理栄養士	佐々木裕樹
	副臨床工学技士長	小笠原順子 その他臨床工学部から2名
治療内容	集中治療部では、全ての診療科の臓器障害を伴った重症な患者さん、大きな手術を受けた患者さん、持病を抱えて手術を受けた患者さんなどを対象にきめ細やかな看護・治療を行っています。例えば、重症肺炎に対する人工呼吸管理、腎不全に対する透析療法、心臓手術後の術後管理などです。また、当院の集中治療部には、手術患者さんの術後管理に特化した外科系ICUもあります。	

部門の特徴・特色

- 麻酔科・集中治療科の医師がすべての集中室内の治療に責任を持って関わるClosed ICUシステムを採用
- 手術後の患者さんの術後管理に特化した外科系ICUを併設
- 日本集中治療医学会の専門医研修施設認定
- 日本呼吸療法医学会の専門医研修施設認定

■ 周産母子センター 部長:横山 良仁

部門の概要

病床数	NICU	6床
	GCU	10床
	LDR(分娩室)	2室
	特殊分娩室	1室
スタッフ	小児科医	26名 (新生児蘇生法専門コース修了者13名)
	小児外科医	3名(小児外科指導医1名、専門医2名)
	産婦人科医	5名 (周産期指導医1名、周産期専門医2名、胎児心エコー認定医1名、新生児蘇生法指導医2名、専門コース修了者3名)
	助産師	26名
	看護師	12名 (新生児蘇生法専門コース修了者25名)

正常分娩・新生児から、母体・胎児・新生児の合併症のある異常妊娠・分娩・新生児の管理を、小児科、小児外科、産科婦人科、その他関連科のチームで行っています。

部門の特徴・特色

妊娠高血圧症候群や糖代謝異常合併妊娠などの他主に重篤な合併症を有する母体の周産期管理、小児外科疾患や先天性心疾患を有する胎児・新生児の管理を中心に行っています。もちろん、地域の方々の正常な妊娠出産の管理も行なっています。高度救命救急センターや関連各科と連携し、産科危機的出血など重症な周産期救急症例にも対応しています。

出生前診断では、特に胎児心臓超音波診断に重点をおき、産科医療機関としては東北地方で唯一専門施設に認定されています。青森県全域および秋田県北地域における特定機能病院として、また地域周産期母子医療センターとして、青森県立中央病院に設置されている総合周産期母子医療センターや各地の周産期母子医療センターと連携し、効率よい周産期医療を行っています。さらに青森県の妊娠と薬情報センター拠点病院に指定されており、妊娠と薬外来も開設しています(ホームページの「妊娠と薬外来」参照)。

センター内では週1回、産科医師、助産師、看護師が参加する「周産期ケースカンファレンス」が開かれ、妊婦に関する情報交換やすでに終了した分娩についての振り返りが行われています。また、隔月で行われる「周産母子センター症例検討会」では、症例にかかわった全科の医師、スタッフが集まり、治療内容の評価検討や今後の症例についての情報交換、治療方針検討を行っています。その他、「青森周産期救急セミナー」や「青森周産期メンタルヘルスセミナー」を毎年開催しています。セミナーでは一般演題のほか、それぞれの分野のエキスパートを全国からお呼びしてご講演頂くなど、地域の周産期医療技術向上のために指導的な役割を果たしています。

県内の多くの医学生、看護学生、卒後臨床研修医などが実習・研修を行うなど周産期医療に関連した教育活動も行っています。県内外から多くの症例が集まってくるため、多種多様な症例に接する機会に恵まれています。また、日本周産期・新生児医学会の母体胎児専門医研修指定施設、新生児専門医補完施設に指定されており、周産期指導医/専門医が在籍しています。

■ 病理部 部長:黒瀬 顕

部門の概要

患者さんから採取された組織や細胞の標本を作製し、それを顕微鏡で観察して病理診断(組織診断、細胞診断)を行うほか、患者さんによりよい医療となるよう、臨床医・病理医・細胞検査士・臨床検査技師が顕微鏡をみながら診断や治療法についてディスカッションする場でもあります。

1. 生検診断

病変の一部を採取し病理診断する。腫瘍の診断のみならず、腎炎や肝炎など非腫瘍病変の診断、治療効果や病状の判定なども行う。移植医療にも重要。生検診断は治療方針の決定に大きく影響する。

2. 手術検体の診断

手術で摘出された組織や臓器を病理医が観察し標本を作製して顕微鏡で観察し診断する。術後治療方針の決定に重要。また摘出組織を肉眼や顕微鏡で観察することは外科医にとっても重要。

3. 術中迅速診断

手術の途中で大至急標本を作って診断し、手術方針の決定に役立てる。特に縮小手術や術前に組織診断がつかない病変に重要。

4. 細胞診

痰や尿中の細胞、綿棒や注射針等で採取した細胞を診断する。患者さんの苦痛が少なく、特に病変のスクリーニングや肺・膵臓・胆嚢など組織診断が困難な部位の診断に重要。

5. 病理解剖

患者さんが亡くなられた場合に、ご家族のお許しを得て解剖させて頂き、臨床医と病理医が一緒に全経過を検討して医療や医学の進展に役立てる。

部門の特徴・特色

1. 病理診断学講座が臨床講座として新設されて病理部の中心を担い、他の病理学教室と協力して質の高い病理診断を行っています。
2. 病理部は臨床医とともに組織や細胞を検討して、より正しい診断や適切な治療を探索する場でもあります。このことは臨床医のトレーニングにも役立ちます。
3. 患者さんの治療に役立つ病理診断を常に目指して、勉強会や臨床とのカンファレンスを積極的に行っています。
4. 全国に先駆けて液状化細胞診を導入し、より精度の高い細胞診ができるようになりました。
5. 病理外来を設置しています。ご希望に応じて、病理医が病変の顕微鏡像をわかりやすく説明します。

■ 光学医療診療部

部長：櫻庭 裕丈
診療教授：珍田 大輔
副部長：菊池 英純

部門の概要

光学医療診療部では、消化器内科医による消化器内視鏡と呼吸器内科医による気管支鏡を用いた検査と治療を行っています。内視鏡システムはすべて最新のものであり、これに対応した最新の高画質内視鏡が複数、導入されています。非常に充実した環境で内視鏡診断・治療が行われています。

また人体に無害な紫外線照射システムの導入による感染対策や、内視鏡洗浄器専用の部屋も隣接して確保され、機器の感染対策、洗浄履歴の管理にも努めております。

部門の特徴・特色

以下による検査・治療を行っています。

●消化器内視鏡

- ①特殊光観察(NBI)と拡大観察
- ②早期癌の内視鏡治療(ESD:内視鏡的粘膜下層剥離術など)
- ③消化管出血の止血
- ④消化管狭窄の治療
- ⑤胃瘻造設
- ⑥胆膵疾患の診断と治療
- ⑦超音波内視鏡(EUS-FNA)
- ⑧炎症性腸疾患(IBD)の診断と治療効果判定
- ⑨小腸および大腸カプセル内視鏡による診断
- ⑩小腸内視鏡による診断と治療
- ⑪食道アカラシアに対する内視鏡手術
- ⑫超拡大内視鏡(Endocytoscopy)による腫瘍・炎症の診断
- ⑬AIによる検査・診断補助
- ⑭再発食道癌に対する光線力学療法(PDT)
- ⑮胃食道逆流症に対する内視鏡治療(ARMS)

●気管支内視鏡

- ①気道腫瘍・肺腫瘍の診断
- ②縦隔・リンパ節病変の診断
- ③びまん性肺疾患の診断
- ④特殊光診断(NBI/AFI)
- ⑤クライオパイプシーによる生検
- ⑥異物の内視鏡的除去
- ⑦肺癰・有癰性膿胸・気胸に対する気管支充填術
- ⑧気道狭窄に対するステント留置術
- ⑨気道内腫瘍に対する内視鏡的治療など

●局所麻酔下胸腔鏡

- ①胸膜疾患・胸膜炎の診断
- ②膿胸に対する胸腔内搔破・排膿・肺含気改善の促進など

■ リハビリテーション部

部長：津田 英一
療法士長：西村 信哉

部門の概要

リハビリテーション部は、医師6名、理学療法士18名、作業療法士7名、言語聴覚士3名、看護師1名、事務職員3名の体制で診療を行っています。

リハビリテーション施設基準として、運動器リハビリテーション、脳血管疾患等リハビリテーション、呼吸器リハビリテーション、がんリハビリテーション、心大血管疾患リハビリテーションを有し、特定機能病院として、また県内の急性期リハビリテーションの中核としてリハビリテーション診療を行っています。各診療科からの処方依頼に対し、整形外科手術後、脊髄損傷、脳血管疾患、神経筋疾患、膠原病、高次脳機能障害、パーキンソン病、四肢の切断再接着、摂食・嚥下機能障害、言語機能障害など、多岐にわたる疾患に対応しております。2017年2月からはロボットスーツHALを用いたロボットリハビリテーションを開始しました。

さらに2019年2月からはVirtual reality(VR)を用いたリハビリテーションロボットも導入しております。

院内各診療科からの入院・外来患者さんのリハビリテーション依頼に対応し、長期フォローが必要な患者さんに対しては、入院中のみならず外来での定期的なリハビリテーションを継続しています。

リハビリテーション関連設備としては、理学療法室、作業療法室、物理療法室、心臓リハビリテーション室、ADL室、義肢装具室、評価室および診察室を有しています。

臨床・教育・研究のうち臨床はもちろんのこと、教育においては実習生の受入の他、セラピストの研修も状況に応じて受け入れ、調査・研究・発表も積極的に行っています。

部門の特徴・特色

●理学療法部門

理学療法部門では、入院および外来患者さんのリハビリテーション医療を個別に担当し実施しております。対象疾患としては整形外科疾患、脳神経外科、心大血管疾患などの急性期の治療を中心に行っております。スポーツ障害・外傷に対しては、膝靭帯損傷術後の早期リハビリテーション、競技復帰に向けたアスレティックリハビリテーションや投球障害肩・野球肘に対する投球フォームチェック、フォーム指導を実施しております。

●作業療法部門

作業療法部門では、発症や受傷後早期から作業療法を実施し、生活行為の改善を支援しております。対象疾患は運動器疾患、脳血管疾患、がん等幅広い疾患となっております。運動器疾患では手外科疾患や脊椎疾患に対し、スプリント療法や上肢機能練習、ロボットリハビリテーションなどを行っています。脳血管疾患では上肢運動麻痺や高次脳機能障害に対し、早期より日常生活活動を獲得できるよう実施しております。がんのリハビリテーションでは手術や化学療法、放射線治療の副作用に伴う、身体・精神・認知機能の低下や活動制限に対して、社会復帰や症状緩和を目的に支援を行っています。

●言語聴覚療法・摂食機能療法

主に脳神経疾患によって生じたコミュニケーション障害に対して、機能改善を目的としたリハビリテーションを行います。また中枢神経疾患や口腔疾患が原因で生じた「食べる」機能の障害に対して、食形態や食事方法の指導、嚥下機能訓練などを行っています。

■ 総合診療部

部長：花田 裕之

部門の概要

近年、高齢化や生活習慣の変化に伴って慢性疾患が増加しつつあるのと同時に、各種疾患・病態における心理社会的要因の関与が認識されるようになり、患者さんの医療に対するニーズも多様になってきました。また医療の専門化に伴い臓器別専門外来の整備・充実が進む反面、全身倦怠感や身体各部の違和感など原因臓器の推定が必ずしも容易でない症状があるため、どの科を受診するのが適当であるかがわからない患者さんも少なくありません。

このような昨今の状況に対応するのが総合診療部の役割です。どの科を受診したらよいかわからない患者さん、症状が身体疾患によるものなのか、ストレスや心配事によるものか、あるいは心の病気なのかかわからない方などが、主な診療対象となっています。総合診療部での診察後、必要に応じて院内各専門科にご紹介しております。地域の適切な医療機関へのご紹介も行っています。外来部門のみの診療科で入院診療は行っていない。

部門の特徴・特色

開設以来受診された方々の主訴は、頭痛、めまい、しびれ、浮腫（むくみ）、胸部の不快感、腰背部痛、腹痛、発熱、物忘れ、手足の痛みや冷感、喉（のど）の違和感、体重減少、不眠、気分不良、ふだんと違った風邪である、症状があるのに精密検査で異常が見つからなかった等、多種多様です。

診察では、可能な限りお話を伺いし、患者さんと共に医療ニーズや問題点を整理すること、全身の身体診察を十分行うことに力点を置いています。その後、検査や初期治療を行い、必要に応じ専門各科に紹介しています。

初診の場合、紹介状と総合患者支援センターでの予約が必要となります。

■ 血液浄化療法部

部長：畠山 真吾

部門の概要

スタッフ	部長(兼任)	1名
	副部長(兼任)	1名
	医師(助教)	1名
	看護師(兼任)	2名
	臨床工学技士	4名

泌尿器科と腎臓内科が協力して診療に当たっています。

血液透析	午前8:30～	午後2:00～
	月・水・金	

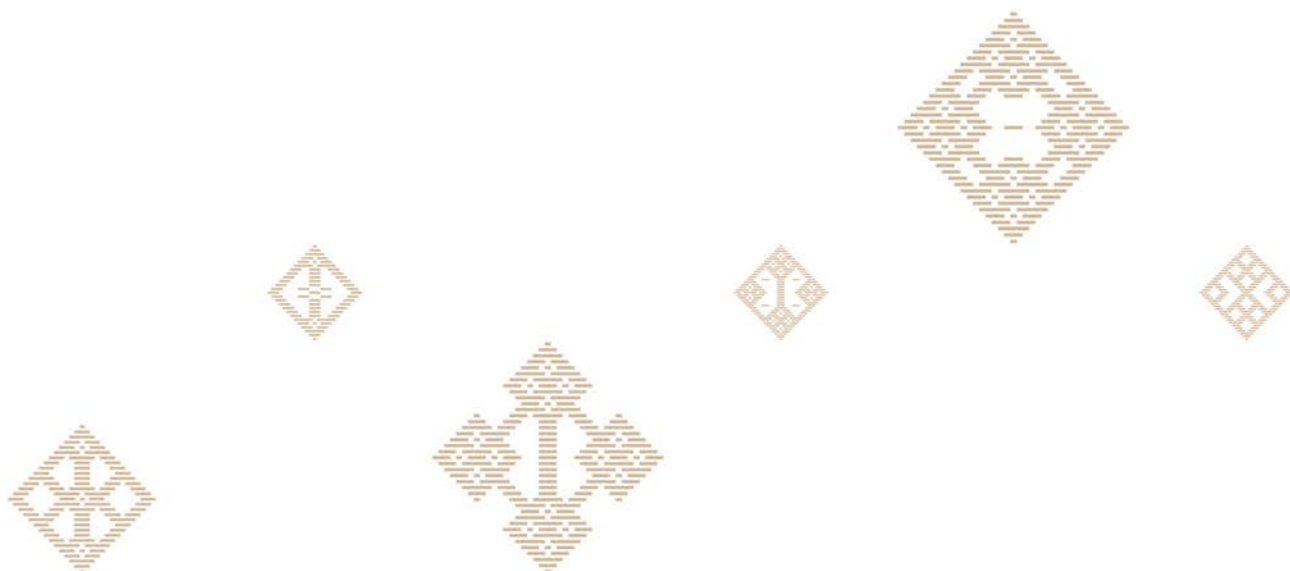
院内発生緊急透析に対応するため、臨時透析として火・木・土日・祝祭日も適宜行っています。

血液透析のほか白血球除去療法、血漿交換、血液吸着などの血液浄化療法を担当しています。

部門の特徴・特色

血液浄化療法室は泌尿器科、腎臓内科のみならず他科の治療目的で入院された方の維持透析を安全に施行しながら、種々の血液浄化療法を行い、年々症例数が増加する腎移植や肝移植を支援しています。

臓器移植は単に件数が増えるのみならず、これまで免疫学的に不可能とされてきたドナー・レシピエント間での移植、たとえばABO血液型不適合移植など難度の高い移植も増えています。この高度な新移植技術を支えるのは、新しい免疫抑制剤と血漿交換等の血液浄化療法です。



■ 高圧酸素治療室 室長代行:袴田 健一

部門の概要

スタッフ	室長代行	袴田健一
	医師	橋場英二
治療疾患	副臨床工学技士長	小笠原 順子
	その他臨床工学部から2名	
治療疾患	急性一酸化炭素中毒	
	潜函病	
	イレウス	
	ガス壊疽	
	突発性難聴	
治療疾患	網膜中心動脈閉塞症 など	

高圧酸素治療室では、一人用の診療機器(第1種装置)を用いて急性期から慢性期に渡る適応疾患に対して治療を行っています。機器の操作は、医師の指示の下に臨床工学士が行い、安全な治療に細心の注意を払っています。

部門の特徴・特色

1. 急性期から慢性期の適応疾患の患者さんを対象にしております。
2. 時間外の患者さんにも対応しております。
3. 地域の中核病院として、院内のみならず周辺地域からの患者さんも受け入れ、地域医療への貢献も心掛けております。
4. 上記以外の適応疾患も治療対象となることがありますので、適宜、相談を受け付けております。

■ 強力化学療法室 室長:照井 君典

部門の概要

強力化学療法室(intensive chemotherapy unit, ICTU)は、骨髄移植、臍帯血移植などの同種造血細胞移植や、自家末梢血幹細胞移植を併用した大量化学療法を行う部門です。それ以外の患者さんでも、強力な化学療法のために高度の好中球減少症が長期間持続し、重篤な感染症を合併するリスクが高いと判断される場合には、利用することができます。

部門の特徴・特色

病棟全体がクラス10,000の無菌度を保つ構造で、その中にクラス100の完全無菌室を3つ備えています。年間4~14例の造血細胞移植が行われており、これまでに200回以上の造血細胞移植を施行してきました。以前は帽子、マスク、ガウンの着用やサンダル履き替えなど、厳重な無菌管理を行っていましたが、現在は米国疾病管理予防センターと日本造血・免疫細胞療法学会のガイドラインに準じて無菌管理の簡素化を推進しています。このような簡素化を行っても感染症の増加はみられておらず、以前に比べて患者さんやご家族の負担も軽くなっています。

■ 臨床工学部 部長:皆川 正仁 副部長(技士長):後藤 武

部門の概要

スタッフ	臨床工学部長	1名
	臨床工学技士長	1名
	副臨床工学技士長	1名
	主任臨床工学技士	3名
	臨床工学技士	20名
	技能補佐員	2名
	計28名	

臨床工学部は、人工呼吸器、人工心肺、血液浄化装置等の生命維持装置の操作を行う臨床業務と院内の医療機器を管理、点検する部署です。

生命維持管理装置、輸液、シリンジポンプ、モニター関連、AEDなど2,500台以上の医療機器を管理しています。

部門の特徴・特色

臨床業務として、人工心肺装置、人工呼吸器、血液浄化装置、補助循環装置等の操作及び管理、心臓カテーテル検査及びアブレーション治療の補助、ペースメーカー、ICD、CRT-D植え込み時のプログラマーの操作及びチェック、高圧酸素療法装置の操作、内視鏡検査及び治療の補助など様々な業務を担当しております。平成28年4月から当直業務を開始して24時間院内に臨床工学技士が常駐して、医療機器の安全使用を確保しています。日々進歩する医療機器に対応しながら、関係職種と連携を取りチーム医療の一員として診療を行っています。

■ 臨床試験管理センター センター長：新岡 文典

部門の概要

組織	臨床研究支援部 治験支援部 事務局
スタッフ	センター長(兼任) 1名 副センター長(兼任) 3名 事務部門 9名 CRC(治験、臨床研究担当) 9名 データマネジャー(兼任) 1名

新規医薬品・医療機器などの開発においては、市販される前の医薬品や医療機器を患者さんに使用していただき、その有効性と安全性を確認するという臨床試験が必要になります。臨床試験管理センターは、臨床試験を安全、倫理的かつ科学的に遂行するために、患者さん—研究責任者—企業などの間を調整する要としての役割を担います。エビデンスに基づいた標準医療(evidence based medicine: EBM)を確立し、世界に発信すべく、適正な臨床研究を円滑に実施するための支援に努めています。

部門の特徴・特色

臨床試験管理センターは、事務局、臨床研究支援部、および治験支援部の3部門から構成されています。

事務局では、医薬品等臨床研究審査委員会(IRB)、認定臨床研究審査委員会(CRB)、および再生医療等委員会の審査申請手続きを支援します。

臨床研究支援部では、特定臨床研究において、治験コーディネーター(CRC)による研究支援、臨床研究の事前審査、データ管理、生物統計解析などの支援を行い、また臨床研究の質を確保するために、モニタリングおよび監査への対応も行います。

治験支援部では、企業治験および医師主導治験のすべてにおいて、CRCによる研究支援を行い、また薬剤部との連携により、治験薬の管理、調剤および調製を行います。

医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師等の専門家と事務担当者が相互に連携・協力し合いながら、治験および臨床研究が安全かつ円滑に実施されるよう努めていきます。

■ 栄養管理部

部長：横山 良仁

部門の概要

栄養管理部は患者さんの疾病治療に関わる栄養管理業務をはじめ、入院患者さんの給食業務及び院内外の方へ栄養支援を行っています。

スタッフ	部長 横山 良仁(産科婦人科) 副部長 柳町 幸 (内分泌内科／糖尿病代謝内科) 管理栄養士長 三上 恵理 主任管理栄養士 嶋崎 真樹子 管理栄養士 須藤 恵・横山 麻実・相馬 亜沙美 佐々木 裕樹・野呂 桃花・石田 もえこ 藤田 裕恵・齋藤 誠 佐藤 真由美・山科 葵 病態栄養認定管理栄養士 NST専門療法士・TNT-D 日本糖尿病療養指導士 青森糖尿病療養指導士 介護支援専門員・健康運動指導士 がん病態栄養専門管理栄養士 NSTコーディネーター 生活習慣病改善指導士 肝炎コーディネーター 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 がん病態栄養専門管理栄養士研修指導師 糖尿病病態栄養専門管理栄養士 心不全療養指導士 調理師
	栄養管理業務 栄養管理計画・栄養指導 多職種連携による栄養管理 管理栄養士の病棟配置・病棟担当 給食業務 院内約束食事箋に基づく病院食の提供 栄養教育 一般市民へ栄養・食生活に関する啓発、学生・実習生・他職種の教育支援

部門の特徴・特色

● 栄養食事指導(栄養相談)

個別指導 入院は予約制・外来は随時受付：月～金曜日
 集団指導* 糖尿病教室(入院)：週2～3回(火・木・金)
 心臓病教室(入院)：週1回(水曜日)
 肝臓病教室：年数回
 マタニティークラス：月1回(第1水曜日)
 がんサロンミニ勉強会：年数回

*感染対策のため、開催内容が記載と異なる場合があります。

● 栄養ケア

特別な栄養管理が必要とされる患者さんには、栄養管理計画に基づいて栄養介入し、定期的に評価しています。
 また、食欲不振や食物アレルギーなど食事に相談がある患者さんには個別対応しています。

● 栄養サポートチーム(NST)

各専門分野のスタッフがそれぞれの専門性を活かして患者さんの栄養状態を評価・分析し、患者さんに最適な栄養療法の実践で治療のサポートに努めています。

● 食事サービス

選択メニューの実施

常食・学齢食・幼児食の患者さん対象に夕食時2種類のメニューから選べます。

お祝いメニューの実施

お誕生日の方や、ご出産された方にお祝いの気持ちを込めて提供しています。

行事食の実施

年20回：毎月5日は弘前市の「りんごを食べる日」にちなんでりんごを使ったメニューを提供しています。

● 新聞の発行

栄養ニュース

月1回：患者さんに栄養情報を発信しています。

栄養管理部ニュース

病院スタッフに栄養情報を発信しています。(随時)

肝疾患相談センター センター長:飯野 勢

部門の概要

慢性肝炎はほとんど無症状のうちに進行し、肝硬変、肝癌にいたることも多い疾患です。一方、慢性肝炎の原因の大半を占めるウイルス性肝炎については近年治療法が著しく進歩し、早期診断されれば完治も望めるようになりました。

わが国のB型、C型肝炎ウイルス感染者は合わせて約300万人存在すると言われており、多くは慢性肝炎の状態であると考えられます。しかし、無症状であるため、感染していること自体を自覚していない感染者も多く、また的確な治療が施されていない患者さんも多数存在するとも考えられています。

そこで、国の肝炎対策事業に基づいて、肝疾患に係る地域の医療水準の向上を図る観点から、肝炎・肝癌に関する高度な専門医療を提供することができ、県内の肝疾患の診療ネットワークの中心的な役割を担う「肝疾患診療連携拠点病院」を各都道府県に原則一か所指定することになりました。

青森県においては平成21年11月18日に弘前大学医学部附属病院が指定を受け、これに伴って、拠点病院の業務を遂行し、県内の肝炎対策に積極的に取り組む部署として設置されたのが肝疾患相談センターです。センターでは肝疾患相談のほか、肝臓病教室、市民公開講座、医療従事者研修会などを開催しています。

部門の特徴・特色

当センターでは相談員がウイルス肝炎に関する治療法などについて患者さん、キャリア、ご家族等からのご相談をお受けいたします。また、ウイルス肝炎に関する様々な情報や県内の医療機関に関する情報を収集し提供してまいります。なお、病気の性格上、ご相談の際にはプライバシーの保護には十分な配慮をいたしますのでご安心ください。

原則として電話で相談を受ける形となります。相談受付時間は平日8時30分から12時、13時から15時となっています。

肝疾患相談センター

TEL. 0172-33-5111 内線4020

ホームページ <https://www.hirosaki-u-liver-center.com>

脳卒中・心臓病等総合支援センター センター長:富田 泰史

部門の概要

令和5年度の厚生労働省「脳卒中・心臓病等総合支援センター」モデル事業に、青森県と当院による申請が採択され、令和5年5月に総合患者支援センター内に「脳卒中・心臓病等相談支援部門」が設置されました。同年8月1日に「青森県・弘前大学医学部附属病院 脳卒中・心臓病等総合支援センター」として事業を開始しています。当院だけでなく、青森県内すべての脳卒中・心臓病の患者・家族の相談支援ならびに循環器病の疾患啓発活動に、青森県と連携しながら取り組んでいます。

スタッフは、医師、看護師、社会福祉士、理学療法士、薬剤師、管理栄養士など多職種から構成され、兼任を含め15名で活動しています。

スタッフ	センター長	富田 泰史(循環器内科医師)
	副センター長	斉藤 敦志(脳神経外科医師)
センター員		久保 由佳(看護師)
		袴田 光樹(社会福祉士)
		佐藤 佑惟(看護師、専任)
		桜庭 厚子(看護師、専任)
		佐藤 誠人(社会福祉士、専任)
		大森 美代子(事務職員、専任)
		福岡 幸子(脳卒中リハビリテーション認定看護師、兼任)
		佐藤 みな(心不全認定看護師、兼任)
		石岡 新治(理学療法士、兼任)
		佐藤 翔(理学療法士、兼任)
		相内 尚也(薬剤師、兼任)
スタッフ		大久保 翔(薬剤師、兼任)
		嶋崎 真樹子(管理栄養士、兼任)

部門の特徴・特色

青森県と密に連携し、以下の事業に取り組んでいます。

- ①青森県内の患者・家族への相談支援
脳卒中・心臓病に関する不安や困りごとについて、専門スタッフが電話やメール、Webによる相談に対応しています。
 - ②県内の各病院・施設・関係機関等との連携構築
Web会議や研修会などを通じて、県内の医療スタッフ間のネットワーク構築(病病連携)に取り組んでいます。
 - ③県民向けの啓発資料開発、公開講座の開催、情報提供
脳卒中・心臓病についての資料を作成し、疾患啓発に取り組んでいます。県民向けの公開講座を定期的に開催しています。急性期・回復期・維持期の留意点を含め、多職種の視点で資料を作成し、情報提供しています。
- 当センターが拠点となり、県内基幹病院・各関係機関等との連携による全県的な相談支援体制を構築し、「健康寿命の延伸」に向けて活動を続けていきます。

青森県・弘前大学医学部附属病院 脳卒中・心臓病等総合支援センター

TEL. 0172-39-5459

メールアドレス noushincenter@hirosaki-u.ac.jp

ホームページ <https://www.hirosaki-noushincenter.jp/>

■ 医療安全推進室

室長：大徳 和之

部門の概要

医療安全推進室は、医療事故等の防止と医療の安全性の確保を目的に、平成13年6月に設置されました。平成18年4月には病院長直属の組織として位置づけられ、全病院的に強力に医療安全活動を推進していく体制が整いました。現在は7名のスタッフで運営されています。構成は、専従のリスクマネージャー3名（医師1名、看護師1名、薬剤師1名）、医師1名、看護師1名、事務職員2名。このほかに、医師1名、看護師2名、薬剤師1名、検査技師1名、放射線技師1名、臨床工学技士1名、事務職員1名が兼任で医療安全推進室の業務に関わっています。

スタッフ

室長 大徳 和之
副室長 花田 千鶴子
副室長 照井 一史
室員 西谷 佑希

部門の特徴・特色

主な業務として、各部署から報告される、医療事故につながる恐れがあるインシデント（ヒヤリ・ハット）を収集・分析して現場にフィードバックすることにより、重大な医療事故の発生を防ぐ努力をしています。また、医療現場に潜むリスクをいち早くとらえて医療環境の整備を行うことを目的に、安全点検の巡回（安全パトロール）を実施しています。さらに、事故防止対策を中心とした医療安全管理マニュアルの作成やシステムの見直しなども行っています。患者さんに有害な事象が発生した場合には、直ちに調査を開始し、必要に応じて調査委員会を設けて、分析と対策にあたります。事故を未然に防ぐためには、全職員の医療安全に対する意識の向上が不可欠であり、そのための職員に対する医療安全教育を担当しています。具体的には研修会や講演会を企画・運営して職員の参加を呼びかけるとともに、全職員には年に2回の出席が義務づけられています。

質の高い、安全な医療を実践していくためには、患者さんと医療者がよきパートナーとして疾患に向き合うことが必要です。患者さんにも、ご自身が受ける治療内容を十分知って頂き、積極的に医療に参加して頂く事が重要です。今後も、医療の安全性の追求と情報の公開は進んでいきます。社会から信頼される医療を提供するために、「患者中心の医療」の実現を目指して活動を続けていきます。



■ 感染制御センター

センター長：齋藤 紀先
副センター長：糸賀 正道

部門の概要

感染制御センターは、医療関連感染対策を実施し、患者さん及び病院教職員に対して安全で快適な医療環境を提供することを目的に、平成15年に設置されました。医療関連感染対策には迅速性、有効性、科学性、経済性、機動性（病院内外との連携）などの様々な要素が求められ、病院全体が一致協力して対応する必要があります。そのため、メンバーは、病院長の任命を受けた医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師、栄養士、事務職員、その他センター長が必要と認めた者から構成されています。医療関連感染対策に関する議決を行う本院の最高レベルの組織である感染対策委員会のもと、感染制御センター、感染制御チームが日常の課題に対処しています。

部門の特徴・特色

感染制御センターでは、具体的に以下のような業務を行っています。

(1) 院内感染発生のサーベイランス

- 分離菌・耐性菌検出状況、薬剤感受性成績のサーベイランスを行っています。常時MRSA、緑膿菌、アシネトバクター、セラチア、ESBL産生菌のサーベイランスを行い、院内感染のアウトブレイク時には、各診療科のスタッフと対応を検討します。
- 抗菌薬の適正使用のため、カルバペネム系薬と抗MRSA薬について使用状況のサーベイランスを行っています。
- 針刺し・切創、皮膚・粘膜汚染のサーベイランスを行っています。

(2) 院内感染防止の教育、研修の実施

- 毎週、全病棟、中央診療施設等及び外来各所は年1回以上感染制御チーム他で、院内ラウンドし各部署の感染対策を確認しています。
- 年5回程度、職種横断的に医療関連感染に関する研修会を企画しています。
- 医師、研修医、看護師、臨床検査技師、薬剤師、外部委託業者などの入職時の初期研修・オリエンテーション、各職種別研修会を行っています。

(3) 院内感染防止の教育、研修の実施

- 感染制御リンクスタッフに対して、連絡会議を通じて現状と対策を周知し、研修会を定期的に行い院内感染防止の教育を行っています。
- 新型コロナウイルス感染症やインフルエンザをはじめとした各種の院内感染対策マニュアルを作成し、見直しを行っています。

(4) 抗菌薬適正使用のため、抗菌薬適正使用チームを組織し、病院内外よりコンサルテーション等の対応をしています。

(5) 医療圏内の感染制御活動・地域感染制御ネットワークを通じた活動を行っています。

詳しくは、青森県感染対策協議会（AICON）Webページをご覧ください。 <http://www.aicon-ict.com/>

(6) 国公立大学附属病院感染対策協議会に参加し、全国的な活動とサーベランス等に参加しています。

(7) 学術誌、マスメディア等を通じて感染制御に関する情報発信を行っています。

部門の概要

組織体制	検査部門 放射線部門 リハビリテーション部門 臨床工学部門	
業務内容 スタッフ数	臨床検査技師 44名 胚培養士 1名 病理細菌助手 1名 診療放射線技師 43名 理学療法士 18名 作業療法士 7名 視能訓練士 4名 言語聴覚士 3名 臨床心理士 1名 公認心理師 1名 臨床工学技士 25名 歯科技工士 1名 歯科衛生士 3名 医療技術補助員 4名 看護師(検査部) 8名 計 164名	2024.4時点

部門の特徴・特色

医療技術部は、医療技術職員を一元的に組織することで、適切な業務運営を推進し、人事計画及び医療技術に関する教育・研修の充実を図ることにより、病院の運営、診療支援及び患者サービス等の向上に努めることを目指しています。

医療技術部職員は、配属先の各部門においてチーム医療の一員として専門的な技術や認定資格を基に医療を支援し病院運営を支える重要な役割を担っています。

また、技術職間のネットワークを活かすことで課題、問題の描出と速やかな解決を目指し、協力、共有できる新たな価値観の創生を図っていきます。

■ 診療実績

当院の診療実績は以下のとおりです。

病床数

病 床	病床数
一般病床	597
精神病床	35
感染症病床	4
合 計	636

(令和6年6月1日現在)

年度別患者数

区 分	入 院					外 来	
	病床数	患者数	1日平均	稼働率	平均在院日数	患者数	1日平均
平成30年度	644	193,338	529.7	82.3	15.0	383,230	1,570.6
令和元年度	644	190,178	519.6	80.7	14.0	386,170	1,609.0
令和2年度	644	177,896	487.4	75.7	13.7	374,421	1,540.8
令和3年度	644	182,238	499.3	77.5	14.0	393,905	1,627.7
令和4年度	644	171,250	469.2	72.9	13.5	396,406	1,631.3
令和5年度	636	173,332	473.6	74.2	12.7	393,266	1,618.4

手術実施件数一覧(令和5年1月～令和5年12月)

区分1に分類される手術

手 術 名	件数
ア 頭蓋内腫瘍摘出術等	97
頭蓋内腫瘍摘出術	
頭蓋内腫瘍摘出術	41
経鼻の下垂体腫瘍摘出術	5
脳動脈瘤被包術	2
脳動脈瘤流入血管クリッピング	5
脳動脈瘤頸部クリッピング	44
広範囲頭蓋底腫瘍切除・再建術	
機能的定位脳手術	
顕微鏡使用によるてんかん手術	
脳刺激装置植込術	
脊髄刺激装置植込術	
脊髄刺激装置交換術	
脳神経手術(開頭して行うもの)	
イ 黄斑下手術等	477
黄斑下手術	3
硝子体茎頭微鏡下離断術	410
増殖性硝子体網膜症手術	55
眼窩内腫瘍摘出術(表在性)	7
眼窩内腫瘍摘出術(深在性)	
眼窩悪性腫瘍手術	
眼窩内異物除去術(表在性)	1
眼窩内異物除去術(深在性)	1
眼筋移動術	
毛様体腫瘍切除術、脈絡膜腫瘍切除術	
ウ 鼓室形成手術等	53
鼓室形成手術	53
内耳窓閉鎖術	
経耳的聴神経腫瘍摘出術	
経迷路の内耳道開放術	
エ 肺悪性腫瘍手術等	124
肺悪性腫瘍手術	4
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術	114
肺切除術	
胸壁悪性腫瘍摘出術	1
腫瘍胸膜、胸膜肺切除術(通常のもの、胸腔鏡下のもの)	
胸膜外肺剥皮術	
胸腔鏡下腫瘍摘出術	4
腫瘍胸腔有茎筋肉弁充填術	
腫瘍胸腔有茎大網充填術	
胸郭形成手術(腫瘍手術の場合)	
気管支形成手術	1
オ 経皮的カテーテル心筋焼灼術	446
経皮的カテーテル心筋焼灼術	446
肺静脈隔離術	

区分2に分類される手術

手 術 名	件数
ア 靱帯断裂形成手術等	120
靱帯断裂形成手術	2
関節鏡下靱帯断裂形成手術	101
靱帯の関節授動術	
関節鏡下関節授動術	3
骨悪性腫瘍手術	12
脊椎、骨盤悪性腫瘍手術	2
イ 水頭症手術等	61
水頭症手術	20
髄液シャント抜去術	3
脳血管内手術	33
経皮的脳血管形成術	5
ウ 鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	6
涙嚢鼻腔吻合術	3
鼻副鼻腔悪性腫瘍手術	3
上咽頭悪性腫瘍手術	
エ 尿道形成手術等	7
尿道下裂形成手術	
陰茎形成術	
前立腺悪性腫瘍手術	
尿道上裂形成手術	
尿道形成手術	
経皮的尿路結石除去術	1
経皮的腎盂腫瘍切除術	
膀胱単純摘除術	
膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術を除く)	6
オ 角膜移植術	10
角膜移植術	10
カ 肝切除術等	66
腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢切除を伴うもの)	
肝切除術	22
腹腔鏡下肝切除術	12
移植用部分肝採取術(生体)(腹腔鏡によるもの)	
脾体尾部腫瘍切除術	13
腹腔鏡下脾頭部腫瘍切除術	1
脾頭部腫瘍切除術	11
骨盤内臓全摘術	1
胆管悪性腫瘍手術	3
肝門部胆管悪性腫瘍手術	3
副腎悪性腫瘍手術	
キ 子宮付属器悪性腫瘍手術等	30
子宮付属器悪性腫瘍手術(両側)	25
卵管鏡下卵管形成術	
腔壁悪性腫瘍手術	
造瘻術、瘻閉鎖症術	
(拡張器利用によるものを除く)	
女子外性器悪性腫瘍手術	3
子宮鏡下子宮内膜焼灼術	2

区分3に分類される手術

手 術 名	件数
ア 上顎骨形成術等	10
顔面神経麻痺形成手術	9
上顎骨形成術	
頬骨変形治療骨折矯正術	
顔面多発骨折靱帯血の手術	1
イ 上顎骨悪性腫瘍手術等	46
耳下腺悪性腫瘍手術	1
上顎骨悪性腫瘍手術	4
喉頭、下咽頭悪性腫瘍手術	8
舌悪性腫瘍手術	33
口腔、顎、顔面悪性腫瘍切除術	
ウ バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	3
バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	3
エ 母指化手術等	2
自家遊離複合組織移植術	
(顕微鏡下血管柄付きのもの)	2
神経血管柄付植皮術(手・足)	
母指化手術	
指移植手術	
オ 内反足手術等	
内反足手術	
先天性気管狭窄症手術	
カ 食道切除再建術等	6
食道切除再建術	
食道腫瘍摘出術(開胸又は開腹手術によるもの、	
腹腔鏡下、縦隔鏡下又は胸腔鏡下によるもの)	
食道悪性腫瘍手術(単に切除のみのもの)	
食道悪性腫瘍手術	4
(消化管再建手術を併施するもの)	
食道切除後2次の再建術	1
食道裂孔ヘルニア手術	1
腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア手術	
キ 同種死体腎移植術等	22
移植用腎採取術(生体)	1
腹腔鏡下移植用腎採取術(生体)	7
同種死体腎移植術	6
生体腎移植術	8

区分4に分類される手術

手術名	件数
胸腔鏡下交感神経節切除術(両側)	431
漏斗胸手術(胸腔鏡によるもの)	5
胸腔鏡下試験開胸術	
胸腔鏡下試験切除術	
胸腔鏡下胸管結紮術(乳糜胸手術)	
胸腔鏡下縦隔切開術	4
胸腔鏡下拡大胸腺摘出術	3
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術	3
胸腔鏡下肺切除術	17
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術	2
胸腔鏡下良性胸壁腫瘍手術	
胸腔鏡下肺縫縮術	
胸腔鏡下食道憩室切除術	
胸腔鏡下食道憩室切除術	
胸腔鏡下先天性食道閉鎖症根治手術	
胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術	31
縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術	
胸腔鏡下食道アカラシア形成手術	
胸腔鏡下食道静脈瘤手術(胃上部血行遮断術)	
胸腔鏡下(胸腔鏡下を含む)横隔膜縫合術	2
胸腔鏡下心臓開窓術	
不整脈手術(左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)に限る)	
胸腔鏡下リンパ節群郭清術(骨盤及び側方に限る)	
胸腔鏡下ヘルニア手術	3
胸腔鏡下鼠径ヘルニア手術(両側)	37
胸腔鏡下試験開腹術	7
胸腔鏡下試験切除術	
胸腔鏡下汎発性腹膜炎手術	
胸腔鏡下大網、腸間膜、後腹膜腫瘍摘出術	
胸腔鏡下胃、十二指腸潰瘍穿孔縫合術	
胸腔鏡下胃吊上げ固定術(胃下垂手術)、胃捻転手術	
胸腔鏡下胃局所切除術	10

手術名	件数
胸腔鏡下胃切除術	21
胸腔鏡下噴門側胃切除術	5
胸腔鏡下胃全摘術	
胸腔鏡下食道下部迷走神経切断術(幹迷切)	
胸腔鏡下食道下部迷走神経選択的切除術	
胸腔鏡下胃腸吻合術	
胸腔鏡下幽門形成術	
胸腔鏡下噴門形成術	
胸腔鏡下胆管切開結石摘出術	
胸腔鏡下胆嚢摘出術	41
胸腔鏡下総胆管拡張症手術	
胸腔鏡下肝嚢胞切開術	1
胸腔鏡下脾固定術	
胸腔鏡下脾摘出術	2
胸腔鏡下腸管癒着剥離術	
胸腔鏡下腸重積症整復術	
胸腔鏡下小腸切除術	
胸腔鏡下虫垂切除術	12
胸腔鏡下結腸切除術	2
胸腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	37
胸腔鏡下全結腸・直腸切除・直腸肛門吻合術	
胸腔鏡下人工肛門造設術	
胸腔鏡下腸瘻・虫垂瘻造設術	
胸腔鏡下腸閉鎖症手術	
胸腔鏡下人工肛門閉鎖術(悪性腫瘍に対する直腸切除術後のものに限る)	
胸腔鏡下腸回転異常症手術	
胸腔鏡下先天性巨大結腸症手術	
胸腔鏡下直腸切除・切断術	55
胸腔鏡下直腸脱手術	
胸腔鏡下鎖肛手術(腹会陰、腹仙骨式)	
胸腔鏡下副腎摘出術	10
胸腔鏡下副腎髄質腫瘍摘出術(褐色細胞腫)	2

手術名	件数
胸腔鏡下副腎悪性腫瘍手術	1
胸腔鏡下腎部分切除術	
胸腔鏡下腎嚢胞切除縮小術	
胸腔鏡下腎嚢胞切除術	
胸腔鏡下腎摘出術	
胸腔鏡下腎(尿管)悪性腫瘍手術	24
胸腔鏡下腎盂形成手術	2
胸腔鏡下移植用腎採取術(生体)	7
胸腔鏡下膀胱部分切除術	
胸腔鏡下膀胱摘出術	
胸腔鏡下尿管摘出術	
胸腔鏡下膀胱内手術	
胸腔鏡下尿失禁手術	
胸腔鏡下内精巣静脈結紮術	
胸腔鏡下腹腔内停留精巣陰嚢内固定術	
胸腔鏡下造陰術	
胸腔鏡下子宮内膜症病巣除去術	2
胸腔鏡下子宮筋腫摘出(核出)術	21
胸腔鏡下子宮腔上部切断術	
胸腔鏡下腔式子宮全摘術	20
胸腔鏡下広帯帯内腫瘍摘出術	
子宮附属器癒着剥離術(両側)(胸腔鏡によるもの)	3
卵巣部分切除術(腔式を含む)(胸腔鏡によるもの)	
卵管結紮術(腔式を含む)(両側)(胸腔鏡によるもの)	
卵管口切開術(胸腔鏡によるもの)	
胸腔鏡下多嚢胞性卵巣焼灼術	
子宮附属器腫瘍摘出術(両側)(胸腔鏡によるもの)	39
卵管全摘除術、卵管腫瘍全摘除術、子宮卵管留置手術(両側)(胸腔鏡によるもの)	
卵管腫瘍全摘除術	
子宮卵管留置手術(両側)(胸腔鏡によるもの)	
胸腔鏡下卵管形成術	
子宮外妊娠手術(胸腔鏡によるもの)	
性腺摘出術(胸腔鏡によるもの)	

その他の区分に分類される手術

手術名	件数
ア 人工関節置換術	140
人工関節置換術	140
イ 乳児外科施設基準対象手術	3
1歳未満の乳児に対する先天性食道閉鎖症根治手術	3
胸腔鏡下先天性食道閉鎖症根治手術	
胸腹裂孔ヘルニア手術	
経皮的肺動脈穿通・拡大術	
単心室症又は三尖弁閉鎖症手術(心室中隔造成術)	
大血管転位症手術	
左心低形成症候群手術(ノルウッド手術)	
先天性胆道閉鎖症手術	
肝切除術	
鎖肛手術(仙骨会陰式、腹会陰式、腹仙骨式)	
仙尾部奇形腫手術	
副腎悪性腫瘍手術	
腎(尿管)悪性腫瘍手術	
ウ ベースメーカー移植術及びベースメーカー交換術	77
ベースメーカー移植術	46
ベースメーカー交換術	31
エ 冠動脈、大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないものを含む)及び体外循環を要する手術	345
冠動脈、大動脈バイパス移植術	22
冠動脈、大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないもの)	82
試験開心術	

手術名	件数
心腔内異物除去術	
心房内血栓除去術	
心臓腫瘍摘出術、心腔内粘液腫摘出術	4
冠動脈形成術(血腔内膜摘除)	
心室瘤切除術(梗塞切除を含む)	
弁形成術	25
胸腔鏡下弁形成術	
弁置換術	44
経カテーテル弁置換術	51
胸腔鏡下弁置換術	2
大動脈弁狭窄直視下切開術	
大動脈弁上狭窄手術	1
大動脈弁下狭窄切除術(線維性、筋肥厚性を含む)	2
弁輪拡大術を伴う大動脈弁置換術	3
ロース手術	
(自己肺動脈弁組織による大動脈基部置換術)	
大動脈瘤切除術(吻合又は移植を含む)	52
オープン型ステントグラフト内挿術	9
大動脈肺動脈中隔欠損症手術	
肺動脈狭窄症、純型肺動脈弁閉鎖症手術	1
肺静脈還流異常症手術	
肺静脈形成術	
心房中隔欠損作成術	
心房中隔欠損閉鎖術	
心室中隔欠損閉鎖術	6
バルサルバ洞動脈瘤手術	
不完全型房室中隔欠損症手術	

手術名	件数
完全型房室中隔欠損症手術	2
ファロー四徴症手術	1
両大血管右室起始症手術	
大血管転位症手術	
修正大血管転位症手術	
総動脈幹症手術	
単心室症又は三尖弁閉鎖症手術	3
左心低形成症候群手術(ノルウッド手術)	
冠動脈静脈開胸の遮断術	
冠動脈起始異常症手術	
肺動脈塞栓除去術	
肺動脈血腔内膜摘除術	
肺静脈血腔内膜摘除術	
不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテルの手術によるものは除く))	35
オ 経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈粥腫切除術及び経皮的冠動脈ステント留置術	233
経皮的冠動脈形成術	50
急性心筋梗塞に対するもの	(20)
不安定狭心症に対するもの	(7)
その他のもの	(23)
経皮的冠動脈粥腫切除術	2
経皮的冠動脈ステント留置術	181
急性心筋梗塞に対するもの	(94)
不安定狭心症に対するもの	(14)
その他のもの	(73)

歯科点数表第2章第9部手術通則第4号に掲げる手術

手術名	件数
	25
舌悪性腫瘍手術	22
口腔、顎、顔面悪性腫瘍切除術	
上顎骨悪性腫瘍手術	3

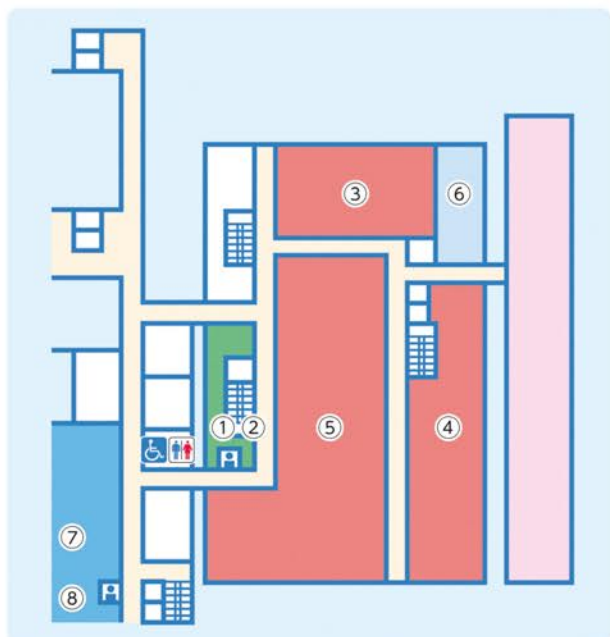
手術名	件数
耳下腺悪性腫瘍手術	
上顎骨形成術	
頬骨変形治療骨折矯正術	
顔面多発骨骨折観血の手術	

手術名	件数
自家遊離複合組織移植術(顕微鏡下血管橋付きのもの)	
皮膚悪性腫瘍切除術(注加算を算定する場合に限る)	

57

■ 院内のご案内

B1F



外 来 診 療 棟

- ① 放射線治療科 ② 放射線診断科 ③ 薬剤部 ④ 医療情報部
⑤ 中央カルテ庫 ⑥ 臨床試験管理センター

中 央 診 療 棟

- ⑦ 放射線部(MRI・PET-CT等) ⑧ RI病棟

1F



外 来 診 療 棟

- ① 腫瘍内科 ② 整形外科 ③ 総合診療部 ④ 医事課
⑤ 薬剤部 ⑥ コーヒーショップ
⑬ 総合患者支援センター・肝疾患相談センター
⑭ 案内 ⑮ 脳卒中・心臓病等総合支援センター

中 央 診 療 棟

- ⑦ 放射線部(レントゲン・CT等)

第 二 病 棟

- ⑧ リハビリテーション科(外来)・リハビリテーション部 ⑨ 食堂
⑩ 売店 ⑪ 美容室 ⑫ 理容室 ⑬ 患者図書室(げんき図書館)
⑭ サービスコーナー(コピー・寝具貸出・宅急便等)

入 院 棟 東

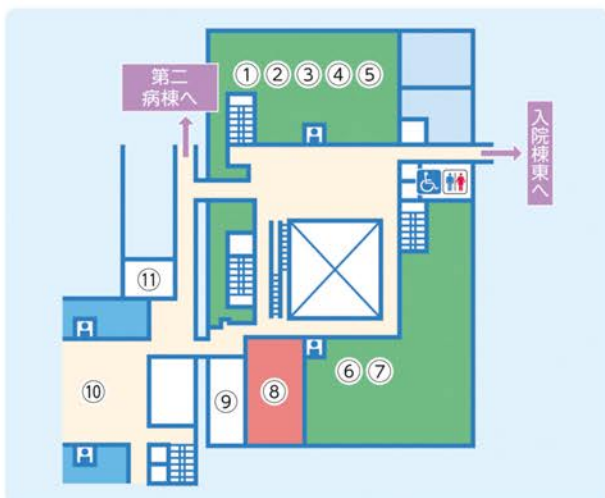
- ⑬ 光学医療診療部 ⑭ 栄養管理部

⑮ 高度救命救急センター



■ 院内のご案内

2F



外 来 診 療 棟

- ① 消化器内科/血液内科/免疫内科 ② 循環器内科/腎臓内科
③ 呼吸器内科/感染症科 ④ 内分泌内科/糖尿病代謝内科 ⑤ 脳神経内科
⑥ 皮膚科 ⑦ 形成外科 ⑧ 輸血部 ⑨ 感染制御センター

中 央 診 療 棟

- ⑩ 検査部(中央採血室・心電図検査室等) ⑪ 医療安全推進室

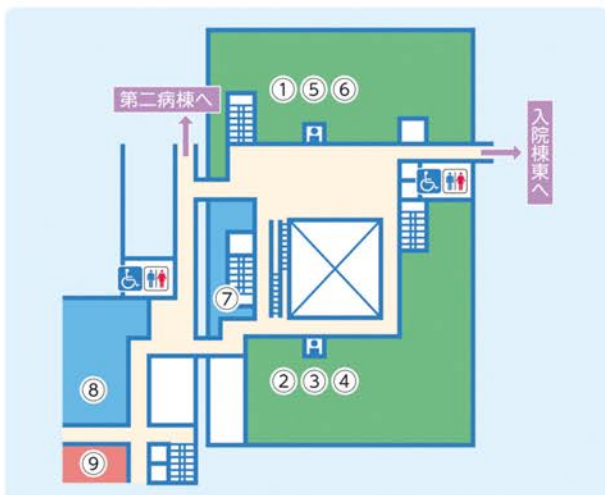
第 二 病 棟

整形外科

入 院 棟 東

消化器外科/乳腺外科/
甲状腺外科

3F



外 来 診 療 棟

- ① 小児科 ② 呼吸器外科/心臓血管外科
③ 消化器外科/乳腺外科/甲状腺外科 ④ 泌尿器科
⑤ 産科婦人科 ⑥ 小児外科 ⑦ 外来化学療法室

中 央 診 療 棟

- ⑧ 周産母子センター ⑨ 材料部

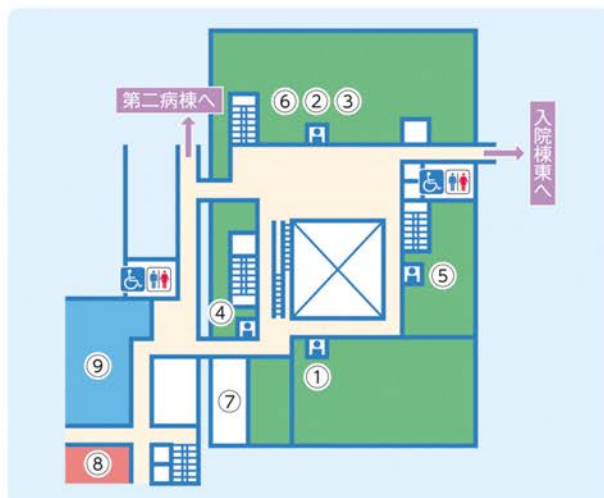
第 二 病 棟

産科婦人科
血液内科

入 院 棟 東

小児科/小児外科
形成外科(小児)

4F



外 来 診 療 棟

- ① 神経科精神科 ② 眼科 ③ 耳鼻咽喉科頭頸部外科
④ 麻酔科 ⑤ 脳神経外科 ⑥ 歯科口腔外科
⑦ がん相談支援センター(がんサロン)

中 央 診 療 棟

- ⑧ 集中治療部(集中治療科) ⑨ 血液浄化療法部

第 二 病 棟

耳鼻咽喉科頭頸部外科
歯科口腔外科/麻酔科/救急科

入 院 棟 東

循環器内科
心臓血管外科

5F

外 来 診 療 棟

総合臨床研修センター/看護部/院内学級
事務部(総務課・経営企画課・経理調達課・病院再開発室)

中 央 診 療 棟

手 術 部

第 二 病 棟

泌尿器科
歯科口腔外科

入 院 棟 東

呼吸器内科/腎臓内科
感染症科/呼吸器外科

6F

第 二 病 棟

脳神経外科/形成外科
SCU(脳卒中集中治療室)

入 院 棟 東

消化器内科/血液内科
免疫内科/腫瘍内科

7F

第 二 病 棟

眼科/整形外科
リハビリテーション科/救急科

入 院 棟 東

内分泌内科/糖尿病代謝内科/脳神経内科
消化器内科(内視鏡)/呼吸器内科/感染症科

8F

第 二 病 棟

放射線治療科
皮膚科/脳神経内科

入 院 棟 東

神経科精神科

■ 受付窓口のご案内



■ 当院へのアクセス



バス [弘南バス]

弘前駅前(中央口)⑥番乗り場→〈所要時間20分〉→大学病院前下車
 ※土手町循環100円バスのご利用が便利です。(100円バス専用乗り場あり)

タクシー:各社

自家用車

- 当院には病院利用者用の正面駐車場・地下駐車場・立体駐車場があり、計460台の車を収容することができます。係員の誘導に従ってご利用ください。
 駐車料金は原則以下の通りです。駐車場ゲートで駐車券を受け取り入庫してから、出庫するまでが30分未満であれば無料です。30分を超過すると1時間ごとに100円の駐車料金が発生します。
 外来患者さんは駐車料金の割引を受けることができます。料金収納窓口でお支払いを済ませましたら、領収証書または当日受診したことを証明できる書類と駐車券をご持参の上、中央待合ホールの駐車券割引パンチ受付コーナーにお寄りください。確認した上で割引パンチをいたします。割引パンチ後は1時間以内の出庫は100円、以降1時間ごとに100円が加算されます。
 お見舞い・訪問者の方には割引制度はありません。原則通り出庫まで30分未満は無料、30分を超過すると1時間ごとに100円の駐車料金が発生しますので、ご了承ください。
 ※1日あたりの上限駐車料金は2,000円です。24時間を超える場合は上限額に24時間以降分が加算されます。
- 駐車場が満車の場合は、当院周辺の民間駐車場(有料)がご利用できる場合があります。
- 当院周辺の公道、特に臨床研究棟沿路は駐車禁止エリアです。不法駐車を取り締まり対象となりますので、駐停車はお止めください。



発行元

国立大学法人

弘前大学医学部附属病院

総合患者支援センター

〒036-8563 青森県弘前市本町53番地

TEL 0172-33-5111 (代表)

<https://www.med.hirosaki-u.ac.jp/hospital>